中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方に関する研究

－道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりを通して－

【研究の概要】

他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における条件，基本となる学習指導過程を作成した。それに沿って，４つの授業実践を行い「多面的・多角的な考え方についての検証」「自分との関わりについての検証」をアンケート及び生徒の振り返り記述から行うことで，中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方について明らかにした。

キーワード：授業における条件，基本となる学習指導過程

平成２９年３月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校　滝沢市立滝沢第二中学校
恩田　弥生

目　次

Ⅰ　研究主題・・1
Ⅱ　主題設定の理由・・・1
Ⅲ　研究の目的・・1
Ⅳ　研究の目標・・1
Ⅴ　研究の見通し・・2
Ⅵ　研究の構想・・2
　1　「考え，議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　(1)　道徳教育の目標の捉え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　(2)　道徳科の目標の捉え・・2
　(3)　「考え，議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2　「考え，議論する」道徳科授業の実現のために・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　(1)　主体的に道徳性を育むための指導の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　(2)　道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた指導の工夫・・4
　3　授業づくりにおける条件と基本となる学習指導過程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　(1)　問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　(2)　問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程・・・・・・・・・・6
　4　検証計画・・8
　5　研究構想図・・・8
Ⅶ　授業実践と授業の考察・・9
　1　実践日程と実践内容・・9
　(1)　実践校・・9
　(2)　対象学年・・9
　(3)　実践期間・・9
　(4)　実践内容・・9
　2　授業実践の実際と考察・・10
　(1)　授業実践１について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　(2)　授業実践２について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　(3)　授業実践３について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
　(4)　授業実践４について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
Ⅷ　研究のまとめ・・34
　1　生徒のアンケートから・・34
　(1)　多面的・多角的な考え方についての検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
　(2)　自分との関わりについての検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
　(3)　課題意識についての検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
　2　事後アンケートの記述から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
　3　全体考察・・・37
　4　研究の成果・・37
　5　今後の課題・・37
＜おわりに＞・・37
Ⅸ　引用文献および参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

Ⅰ　研究主題

中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方に関する研究

－道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりを通して－

Ⅱ　主題設定の理由

平成 27 年３月，学習指導要領が一部改訂され，「道徳の時間」が「特別の教科　道徳」（以下「道徳科」）として位置付けられた。それに伴い，道徳教育の目標は，「自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」と改められた。また，道徳科の目標も，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」と改められた。

これは，これまで読み物教材の登場人物の心情理解のみに偏り，「あなたならどのように考え，行動・実践するか」を子供たちに真正面から問うことを避けてきた嫌いがあることを背景としている（教育課程企画特別部会（2015），『論点整理』）。そのため，本改訂は，発達の段階に応じ，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え，向き合う「考え，議論する」道徳へと質的に変換し，道徳教育の充実・強化を図ることを目的としている。

その目的達成のために，問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などを取り入れた指導方法の工夫の必要性が示された。授業の中に「自分ならどのように考え，行動・実践するか」を考えさせ，また自分とは異なる意見と向かい合い議論する場面を設定することが必要である。そうした場面を設定した問題解決的な学習などを通して，道徳的価値について多面的・多角的に考え，実践へと結び付け，更に習慣化していく指導へと転換していくことが求められている。

中学生の時期は，自らの人生についての関心が高くなり，自分の人生をよりよく生きたいという内からの願いが強くなる。また同時に，心身の成長は目覚しいが不安定な時期でもある。感情の起伏が目立ち，ともするとささいなことから思いの行き違いが生じることもある。そのような時期にある中学生に，教材を通して，そこにある事象を深く見つめさせ，「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を考えさせたい。さらに，異なる意見や多様な意見に出会う意義を実感させたい。そして，自分を深く見つめ，他者の考えを理解し，共によりよく生きようとする生徒を育てたい。

そこで本研究では，他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うために，道徳的価値ついて多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業を実践していくことを通して，中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方について明らかにしていく。

Ⅲ　研究の目的

他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業を実践していくことを通して，中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方について明らかにする。

Ⅳ　研究の目標

他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件，基本となる学習指導過程を明らかにする。それに沿って実践を行い，事前・事後のアンケートを基に検証した実践に役立つ資料等を作成する。

Ⅴ　研究の見通し

道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件，基本となる学習指導過程を立案し，学習指導案を作成する。作成した学習指導案を基に，授業実践を行う。授業におけるワークシートや事前・事後のアンケートを含めた実践に役立つ資料等を作成し，中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方について明らかにする。

Ⅵ　研究構想

１　「考え，議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方

(1)　道徳教育の目標の捉え

道徳教育の目標は，自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。中学校学習指導要領解説道徳編では，「人間は，本来，人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。」とある。この願いを実現するために，時に悩み，時に苦しむ。その過程において，自己を知り，考えの異なる他者を知り，さらに人間とはどう在るべきなのか考える。さらに人間社会と自然との調和的な関わりがなければ，よりよく生きることにはならないことに気付く。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立つ。つまり，人間が本来もっているよりよく生きたいという願いや，よりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し，生徒と教師が共に考え，共に人間としての生き方についての自覚を深めるものである。よりよく生きるための道しるべが道徳教育とも言える。

中学校の時期においては，３年間の発達の段階を考慮するとともに，小学校高学年段階における指導との接続を意識しつつ，高等学校等における人間としての在り方生き方に関する教育への見通しをもって進める必要がある。

(2)　道徳科の目標の捉え

ア　道徳科の目標の構造

道徳科の目標は，道徳科が目指すものや学習を進めていく上で留意すべきことで構成され，発達の段階に即した小学校・中学校における重点が示されている。道徳科が目指すものは，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に，よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。道徳性とは，人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり，その中核となっている道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度といった内面的資質である。学習を進めていく上で留意すべき諸側面として，中学校では「自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習」が示されている。小学校では，「自己を見つめ，多面的・多角的に考え，自己の生き方についての考えを深める学習」とあるように，発達の段階に即した重点が示されていることがわかる。

イ　「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」とは

「物事を広い視野から多面的・多角的に考える」とは，道徳的価値の理解を基に行うものである。道徳的価値とは，「他者と共によりよく生きていくために必要とされているもの」であり，「人間の在り方や生き方の礎となるもの」である。道徳的価値について多面的・多角的に考える場合，内容項目の４つの視点が前提になる。多面的に考えるとは，道徳的価値が持つ本質的な側面(多面性)を一面から捉えるのではなく，様々な面から捉えることである。例えば，思いやりを多面的に考えるのであれば，相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量る視点を踏まえ，「相手を励まそうとする心」「相手を援助しようとする心」「相手を見守ろうとす

る心」のように道徳的価値の多面性を捉え，考えることである。また，多角的に考えるとは，多面性に着目した道徳的価値について，「自分なら」「相手なら」「今なら」「過去なら」「未来なら」といったように，視点を変えて捉え，考えることである。また，「思いやりと遵法精神」といったように他の道徳的価値との関わりから捉えることでもある。中学校における道徳科の学習では，生徒一人一人の道徳的価値に関わる諸事象を，小・中学校の段階を含めたこれまでの道徳科を要とする各教科等における学習の成果を踏まえ，多面的・多角的に考察することが求められる。道徳的価値の多面性に着目させ，それを手掛かりに考察させて，様々な角度から総合的に考察することの大切さや，いかに生きるかについて主体的に考えることの大切さに気付かせることが求められる。

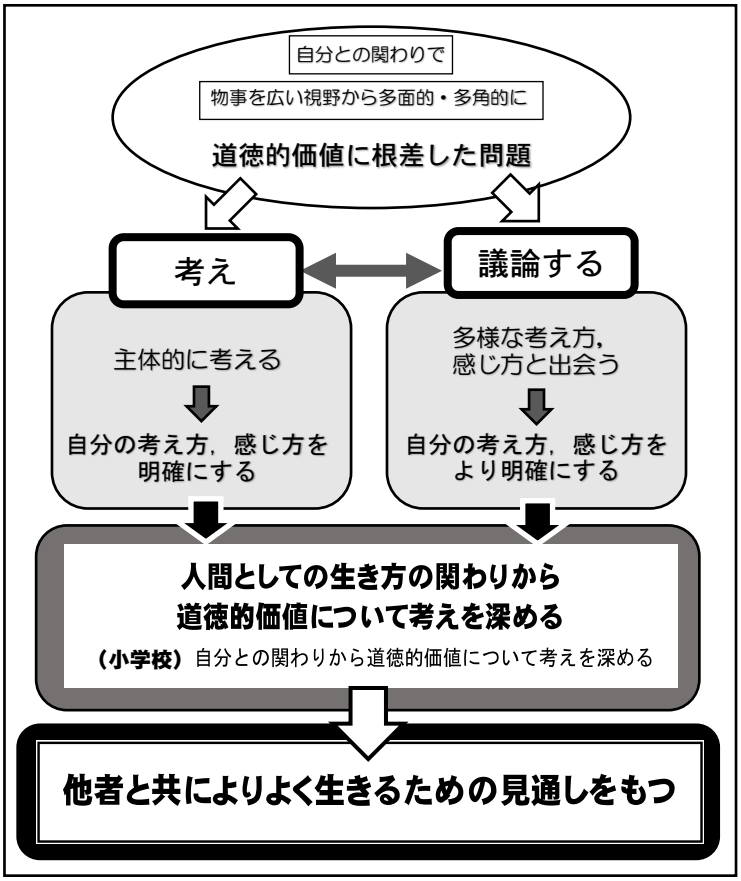
ウ　「人間としての生き方についての考えを深める」とは

中学生の時期は，自らの人生についての関心が高くなり，人生の意味をどこに求め，いかによりよく生きるかという人間としての生き方を主体的に模索し始める時期である。生徒たちは，「何が大切か」「何をしてはいけないか」を知っている。そして，実際の生活では，時と場に応じて，いくつかの障壁があり，実現することが難しいことがあることも経験上知っている。そこで授業において，道徳的価値の良さや，実現することの難しさなどを扱った教材について他者と議論し，「自分なら」と考えることが必要であると考える。道徳的価値について自分との関わりで考えたり，人間についての深い理解と，これを鏡として行為の主体としての自己を深く見つめたりすることで，人間としての生き方について深い自覚が生まれることが期待される。道徳科の学習を通して，自分自身が人間としてよりよく生きていく上で道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気付き，自己や社会の未来に夢や希望がもてるようにすることも大切である。

(2)　「考え，議論する」道徳科授業に関する基本的な考え方

今回の改訂は，道徳教育を通じて，個人が直面する様々な状況の中で，そこにある事象を深く見つめ，自分はどうすべきか，自分に何ができるかを判断し，そのことを実行する手立てを考え，実践できるようにしていくなどの改善が必要とされ，「考え，議論する」道徳へと質的に転換し道徳教育の充実・強化を図ることを目的としている。

そこで必要なことは，まず，一人一人の生徒が，道徳的価値に根差した問題について，自分との関わりで捉え，自分がどのように感じたり考えたりするのかを「考える」ことである。これにより背景にある道徳的価値と自分との関わりを主体的に問い直すことにつながり，自分の感じ方や考え方が明確になる。



【図１】「考え，議論する」道徳科授業構想図

さらに，異なる意見をもつ他者と「議論する」ことによって，多様な感じ方や考え方に出会うことができる。他者と協働して考えることによって，多様な価値観の存在を認識するだけでなく，自分の感じ方や考え方がより明確になる。

そして，その問題に対して，人間とはどうあるべきか，人間としての生き方の関わりから，自分なりの解決策を選択・決定したり，解決する上で大切にした道徳的価値について考えを深めたりすることで，よりよく生きるための見通しをもつことができる。道徳教育が道しるべとするならば，その道を明るく照らす光源が「考え，議論する」道徳と考える。以上より本研究では，「考え，議論する」道徳科授業を次のように捉え，授業構想を前頁【図１】に示す。

【「考え，議論する」道徳の捉え】

「考え，議論する」道徳とは，一人一人の生徒が，道徳的価値に根差した問題について，自分がどのように感じたり考えたりするのかを「考え」，異なる意見をもつ他者と「議論する」ことで多様な感じ方や考え方に出会い，人間としての生き方との関わりから道徳的価値について考えを深めることによって，よりよく生きるための見通しをもつこと。

２　「考え，議論する」道徳科授業の実現のために

(1)　主体的に道徳性を育むための指導の工夫

ア　課題意識・見通し

主体的に道徳性を育むために，学習の始めに生徒自らが学びたいという課題意識や課題追究への意欲を高めることや，学習の見通しをもたせることが大切である。教材や生徒の生活体験などを生かしながら，道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る必要がある。

イ　学習活動・振り返り

将来の変化を予測することが困難な時代には，よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要となる。そのためには，自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め，多様な他者と議論を重ねて探究し，「納得解」（自分が納得でき周囲の納得も得られる解）を得るための資質・能力が求められる（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016)，『「特別の教科　道徳」指導方法・評価等について（報告）』）。この「納得解を得るための資質・能力」は，多様な感じ方や考え方に出会い，他者と協働して考えることによって育まれていくものと考える。そこで，生徒一人一人が主体的に取り組むことができる表現活動や話し合い活動を設定したり，学んだ道徳的価値に照らして，自らの生活や考えを見つめるための具体的な振り返り活動を工夫したりすることが必要である。さらに振り返りの場面では，自らの成長を実感し，これからの課題や目標を見付けることにつなげたい。

(2)　道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた指導の工夫

ア　道徳科における問題

「考え，議論する」道徳科授業の実現のために，授業の中に「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を考えさせ，また自分とは異なる意見と向かい合い議論する場面を設定した問題解決的な学習を取り入れることが考えられる。道徳的価値に根差した問題は，次頁に示す４つがある。本研究では，これらの問題が含まれる教材を，「私たちの道徳」や副読本などから取り上げ授業実践を行う。

【道徳的価値に根差した問題について】

1　道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題
2　道徳的諸価値について理解が不十分または誤解していることから生じる問題
3　道徳的諸価値のことは理解しているが，それを実現しようとする自分とそうできない自分との葛藤から生じる問題
4　複数の道徳的諸価値の間の対立から生じる問題

イ　道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習

「学ぶ」とは，外からの情報や知識を自分の中に取り入れるといった要素がある。本研究では，多様な感じ方や考え方に出会い，他者と協働して考えることによって，人間としての生き方の関わりから道徳的価値の理解を深めていきたいと考える。

まず，学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題について多面的・多角的に考えさせることで，道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にする。さらに，学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題について，自分との関わりで考えることで，自分ごととして道徳的価値について理解する。自分との関わりで考えるために，「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」など具体的に考え，議論する必要がある。議論することで，多様な感じ方や考え方に出会い，他者と協働して考えることができる。議論の後，最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返ることで，道徳的価値について課題や目標を見つける。このようにして，人間としての生き方の関わりから道徳的価値の理解を深める学習を，多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習とする。

3　授業づくりにおける条件と基本となる学習指導過程について

道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて行われるものであり，道徳科の授業が道徳教育の要となる。道徳科授業では，学校の教育活動や生徒の実態に合わせて，学習の基本となる 22 の内容項目を踏まえ，教材をどのように活用し，どのような学習指導過程や指導方法で学習を進めるのか考慮する必要がある。そこで，道徳科授業における道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を行うにあたり，授業づくりにおける条件と基本となる学習指導過程を以下に示す。

(1)　問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件

道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業は，次の７つの条件を満たす必要があると考える。多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件を以下に示す。

【多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件】

条件１　学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題のある教材を準備すること
条件２　多面的・多角的な視点から，問題に対する教材分析を行うこと
条件３　多面的・多角的な視点から，解決すべき問題に対する心情や行動についての発問を用意すること
条件４　学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題について，問題意識をもたせる場面を設けること
条件５　「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を意思決定する場面を設けること
条件６　解決すべき問題や道徳的価値について，多面的・多角的に議論する場面を設けること
条件７　最終的な自分の判断をまとめ，これからの課題や目標を見付ける場面を設けること

ア　条件１～３について

条件１～３は，授業の準備段階の条件である。多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を成立させるため，学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題のある読み物教材，映像教材を準備することが第１となる。そして，問題場面における主人公の心情や行動について多面的・多角的に考えられる教材分析を行い，発問を準備することが必要である。

イ　条件４～７について

条件４～７は，授業場面での条件である。道徳科の授業において，より主体的に道徳性を育むために，道徳科における問題について，問題意識をもたせる場面を設ける。さらに，「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」を意思決定する場面を設ける必要がある。意見をもとに多面的・多角的に議論する場面を設けることで，多様な価値観の存在を認識するだけでなく，自分の感じ方や考え方がより明確になる。

議論の後は，最終的な自分の判断をまとめる場面を設ける。授業の最後には，学習を振り返り，これからの課題や目標を見付ける場面を設けることで，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができるような内面的資質が高められると考える。

(2)　問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件から，授業における学習指導過程は，次の４つの要素からなることが考えられる。多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程を以下に示す。

【多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程】

○　教材や日常生活から道徳的な課題を見付け，学習テーマを共有する。条件４より
○　問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。（他者と議論する）条件３・６より
○　「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える。（他者と議論する）条件５・６より
○　最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る。条件７より

上記の学習指導過程を，導入・展開・終末の各段階に位置付け，学習例と発問例を含めたものを次頁【表１】に示す。

※【表１】に示す多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程と発問例は，本研究における「多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件」及び「多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程」を基に作成したものであり，学習の順序や発問はこれらに限定されるものではない。学級の実態，生徒の実態を踏まえ，授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要である。

【表１】多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程と発問例

<table>
<tr><td rowspan="4">導入</td><td colspan="3">○教材や日常生活から道徳的価値に根差した問題を見つけ，学習テーマを共有する。
主題に対する生徒の興味や関心を高め，学習への意欲を喚起して，道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る。</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例①】
本時の主題に関わる問題意識をもつ。</td><td>【学習例と発問例②】
教材の内容に興味や関心をもつ。</td><td>【学習例と発問例③】
生活経験を振り返る。</td></tr>
<tr><td>・～はどんなことが問題なのか。</td><td>・～という話題について考えてみよう。</td><td>・～したことがあるか。</td></tr>
<tr><td>主題における道徳的な問題を課題化する。</td><td>教材における道徳的な問題を課題化する。</td><td>生活経験における道徳的な問題を課題化する。</td></tr>
<tr><td rowspan="9">展開</td><td colspan="3">○問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。（他者と議論する）
ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる。</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例④】
問題場面における主人公について考える。</td><td>【学習例と発問例⑤】
問題場面における主人公がとった行動の理由を考える。</td><td>【学習例と発問例⑥】
問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。</td></tr>
<tr><td>・主人公の行動や考え方について感じたことは何か。</td><td>・主人公がそのように行動したのはなぜか。</td><td>・そのような主人公をどう思うか。</td></tr>
<tr><td>共感的な発問
主人公の行動や考え方を類推し自分の考え方と重ねることで，自分自身の行動の源となる心情が明確になる。</td><td>分析的な発問
主人公を客観的にとらえ，行動の理由を類推することで，自分自身の価値観やこれまでの経験が明確になる。</td><td>批判的な発問
主人公の行動について，自分自身と照らし合わせて考えることで，自分の感じ方や考え方が明確になる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">主として多面的な思考</td><td>主として多角的な思考</td></tr>
<tr><td colspan="3">○「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える。（他者と議論する）
道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める。</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑦】
問題解決に向かう主人公について考える。</td><td>【学習例と発問例⑧】
問題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考える。</td><td>【学習例と発問例⑨】
問題を自分との関係で捉え，自分の将来に生かす。</td></tr>
<tr><td>・主人公は，今どんなことを考えているか。</td><td>・～のとき，自分ならどうするか。</td><td>・主人公の行動から，自分はどうしなければならないと思うか。</td></tr>
<tr><td>共感的な発問
問題解決に向かう主人公に自分を重ねて考えることで，道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める。</td><td>投影的な発問
主人公に自分を重ね，解決に向けて考えることで，道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める。</td><td>発展的な発問
問題に対する自分の感じ方や考え方を明らかにすることで，人間としての生き方や在り方について考えを深める。</td></tr>
<tr><td>主として多面的な思考</td><td colspan="2">主として多角的な思考</td></tr>
<tr><td rowspan="3">終末</td><td colspan="3">○最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る。
道徳的価値を実現することのよさや難しさなどをまとめ，今後の発展につなげる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【学習例と発問例⑩】
学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。</td><td>【学習例と発問例⑪】
これからの課題や目標について考える。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・～はなぜ大切なのか。
・本当の～とは何だろうか。</td><td>・自分は～についてどう思うか。
・これから～についてどうしていきたいか。</td></tr>
</table>

4　検証計画

「考え，議論する」道徳科授業の在り方について明らかにするために，道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業を実践し，人間としての生き方との関わりから道徳的価値について考え深めることができたか，アンケート及び生徒の振り返り記述から検証を行う。検証計画を【表２】に示す。

【表２】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法
・生き方との関わりから道徳的価値について考えを深めることができたか	・多面的・多角的な考え方について ・自分との関わりについて ・課題意識について	・授業記録の分析考察 ・自己評価の分析考察 ・振り返り記述の分析考察 ・事前・事後アンケートの分析考察

5　研究構想図

Ⅶ　授業実践と授業の考察

1　実践日程と実践内容

(1)　実 践 校　滝沢市立滝沢第二中学校

(2)　対象学年　第１学年　１組，２組，３組，４組，５組(140 名)

(3)　実践期間　平成 28 年９月 12 日(火)～平成 28 年 10 月 18 日(火)

(4)　実践内容

実践内容は，一覧として【表３】に示した通りである。

【表３】実践内容の一覧

授業 実践１	平成 28 年９月 12 日(火)，13 日(水)，14 日(木) 主題名　思いやる相手について考える［思いやり，感謝］ 教材名　だれを先に乗せる？（出典 NHK for school「ココロ部！」） 【教材の概要】 車で会社に向かう途中，故障したバスと５人の乗客を発見するコジマくん。 → ５人の乗客うち３人を，自分の車に乗せることを提案するコジマくん。 → ５人の乗客から急いでいる理由を聞くコジマくん。 → ５人全員に「車に乗りたい」とお願いされ，だれを先に乗せればいいか悩むコジマくん。
授業 実践２	平成 28 年９月 20 日(火)，21 日(水)，23 日(金) 主題名　正しいことを正しいと言うには［自主，自律，自由と責任］ 教材名　裏庭のできごと（出典　学研「かけがえのないきみだから　１年」） 【教材の概要】 遊んではいけないと分かっていながら，裏庭で雄一，大輔とサッカーをはじめてしまう健二。 → 雄一が鳥のヒナを救うためガラスを割ってしまった後も遊びを続け，もう一枚ガラスを割ってしまう健二。 → 大輔の口車に乗せられて，二枚とも雄一が割ったことにしてしまう健二。 → 雄一に卑怯と言われ，大輔に口止めされ，どうしたらよいか悩む健二。
授業 実践３	平成 28 年 10 月　11 日(火)，12 日(水)，13 日(木) 主題名　命あるものとの向き合い方について考える［生命の尊さ］ 教材名　サルも人も愛した写真家（出典　NHK 道徳ドキュメント１　キミならどうする？） 【教材の概要】 ニホンザルに魅了され，移住してまで写真を撮り続けてきた動物写真家松岡史郎さん。 → 天然記念物として守られ数を増やしたサルに，畑を荒らされ生活を脅かされた住民はサルの駆除を決める。 → 駆除するサルを見分けてもらいたいと住民に頼まれ，悩む松岡さん。 → サルのために，住民のために苦渋の決断をし，駆除に協力する松岡さん。
授業 実践４	平成 28 年 10 月 18 日(火) 主題名　自分をコントロールするには［節度，節制］ 教材名　釣りざおの思い出（出典　学研「かけがえのないきみだから　１年」） 【教材の概要】 ずっと憧れていた釣りざおを買ってもらい，釣りに出かける「わたし」。 → 釣りに夢中になってしまい，約束の時間が過ぎても釣りを続けてしまう「わたし」。 → 釣りざおを折りながら，涙を流す母を見つめる「わたし」。 → 苦い思い出として今でも時計を見る「わたし」。

２　実践授業の実際と考察

(1)　授業実践１について

ア　実践構想

道徳学習指導案

１　主題名　思いやる相手について考える　［思いやり，感謝］
　　教材名　だれを先に乗せる？（出典　NHK for school「ココロ部！」）

２　ねらい　だれを先に乗せるべきか悩んでいる主人公の行動を追体験することを通して，思いやる相手について，年齢や性別や事情など多方面から相手を推し量ろうとする判断力を育てる。

３　主題設定の理由

(1)　価値について

小学校高学年の内容項目［思いやり，感謝］では，「誰に対しても思いやりの心をもち，相手の立場に立って親切にすること」を目標としている。中学校では「思いやりの心をもって人と接するとともに，家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し，進んでそれに応え，人間愛の精神を深めること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ，中学校では単に思いやりや感謝が大切であることだけでなく，相手の立場や気持ちに対する配慮についても理解を深めていくことが大切である。

本主題は「思いやる相手について，年齢や性別や事情など多方面から相手を推し量ろうとする判断力を育てる。」ことをねらいとしている。思いやりの心は，自分が他に能動的に接するときに必要な心のあり方であり，他の人の立場を尊重しながら，親切にし，いたわり，励ますという生き方に現れる。さらに，思いやりには，思いやる対象や，相手が存在する。その人が現在どういう状況にあるか，何をしてほしいと望み，何をしてほしくないと思っているかなど，思いやりは相手の心や状況を推し量り，想像する心である。

(2)　生徒について

中学校生活も半年を経過し，中学生としての自覚が育ってきている。相手を思いやり，仲間と協力しながら，部活動や生徒会活動に積極的に取り組んできた。しかし，思いやりのある行動は大切だとわかっていても，相手の立場や状況を推し量らずに，自分本位な行動をしてしまうことも見受けられる。思いやる相手の立場に立って考えることで，相手の心を推し量り，総合的に判断する力を育てたい。

(3)　教材について

本教材は，NHK for school「ココロ部！」による映像教材である。この番組は，考える力やコミュニケーション力を楽しみながら身につけることを目的として制作されている。

主人公のコジマくんは出勤途中のサラリーマンである。ある日の朝，コジマくんは車で会社に向かうため，山道を急いでいた。その道中，故障したバスと乗客達を発見する。緊急事態のようで，次のバスやタクシーが来るまで１時間以上はかかるという。乗客５人はみんな急いでおり，とても困っている。コジマくんは自分の車で乗客達を乗せていくことを提案するが，３人しか乗せられることができない。乗客５人全員が「車に乗りたい」とコジマくんにお願いする状況の中，だれを先に乗せればいいか悩むという内容である。

(4)　指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から，道徳的価値について人間としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業とし，学習テーマを「思いやる相手について考える。」と設定する。教材を通して，外見や都合にとらわれることなく，相手の様子や状況をよく考えることの大切さを捉えさせたい。そこで，だれを先に乗せたらいいか悩んでいる主人公の行動を追体験させ，相手の様子や状況を多方面から推し量ることこそが，相手を思いやることであることに気付かせたい。さらに，だれを先に優先して乗せるかについて考え，話し合いを行う。この活動を通して，思いやりのある行動をとるためには，相手のことを十分考える必要があることを実感させたい。

4　研究との関わり

(1)　主体的に道徳性を育むための指導の工夫

ア　課題意識・見通し

導入では，中学校で起きた事例を紹介し，思いやりのある行動には，必ず相手が存在することや，相手が目の前にいなくても，状況を推し量ることができることを紹介し，本時の学習テーマを「思いやる相手について考える。」と設定する場面を設ける。

展開前段では，「コジマくんは，どんな理由で３人を選んだか。」という発問をし，生徒が相手の様子や状況を多方面から推し量ることで，道徳的価値について多面的・多角的に捉えることができるようにする。

イ　学習活動・振り返り

主体的に道徳的価値について考えさせるために，展開後段では，「困っている５人のうち，あなただったら，どの３人を優先するか。」と発問し，理由を考えさせることで，生徒がどんな観点で「思いやる相手」について考えているのか明らかにする場面を設ける。さらに，ペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める工夫を行う。話し合うことで自分にはなかった考え方に気付かせたい。話し合いの後段では「自分ならどの３人を優先するか。」について考えをまとめる。

そして終末では，分割提示した教材の後半を視聴し，多くを語らなかった「こわそうな男性」の急ぐ理由を聞くことで，「思いやる相手」について，さらに考えを深めさせる。そして，導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「相手を思いやるとき何を大切にすべきか。」について最終的な自分の判断をまとめ，これからの課題や目標を見つけることにつなげる。

(2)　問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

<table>
<tr><td rowspan="2">導入</td><td colspan="2">○教材や日常生活から道徳的な問題を見つけ，学習テーマを共有する。　条件４</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例②】
教材の内容に興味や関心をもつ。</td><td>【発問】
「こんな場面に遭遇したら，あなたはどうしますか。」</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開</td><td colspan="2">○問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。条件３，６</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑤】
問題場面における主人公がとった行動の理由を考える。</td><td>【発問】
「コジマくんはどんな理由から，この３人を選んだのでしょう。」</td></tr>
<tr><td colspan="2">○「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える。
（他者と議論する）　条件５．６</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑧】
問題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考える。</td><td>【発問】
「もし，あなたがコジマくんと同じ立場だったら，どの３人を先に車に乗せますか。」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">終末</td><td colspan="2">○最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る。　条件７</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑪】
これからの課題や目標について考える。</td><td>【発問】
「相手を思いやるときに，どんなことを大切にしていこうと思いますか。」</td></tr>
</table>

イ　本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	**1　自分の生活を振り返り，問題意識をもつ。** 「滝二中の３年生の人の話です。金曜日の下校途中，１年生の白衣が落ちていることに気付きます。こんな場面に遭遇したら，あなたはどうしますか。」 「拾います。」 「通り過ぎると思います。」 「実際は，３年の生徒は，洗ってアイロンをして，月曜日に届けてくれました。３年の生徒が届けたのは，どんなことを考えたからでしょうか。」 「１年生が困るだろうな，と思って。」 「１年生のために役に立ちたい，と考えたから。」 **2　本時の学習の方向性を確認する。** 「今日は『思いやる相手』について考えていきましょう。」 **3　教材を視聴し，あらすじを確認する。** 「あらすじを確認します。主人公はコジマ君です。通勤途中の山道で故障しているバスに遭遇します。車に乗れるのは３人だけです。困っている人は５人います。コジマ君は「笑顔のすてきな女性」「やさしそうなおばあさん」「お世話になった佐藤さん」の３人を選びました。	**【学習例と発問例②】** 教材の内容に興味や関心をもつ。 **学習テーマを共有する**　条件４ 実際に中学校で起きた事例を紹介し，思いやりのある行動には，必ず相手が存在することや，相手が目の前にいなくても，状況を推し量ることができることを紹介し，本時の学習テーマを「思いやる相手について考える。」と設定した。 「誰が，どのように思いやる相手について考えているか。」に注目することを生徒に伝えてから，教材を視聴した。
展開	**4　主人公の気持ちや行動について考える。** 「コジマ君はどんな理由からこの３人を選んだのでしょう。」 「笑顔のすてきな女性は，女の人は優先したほうがいいと思ったからだと思います。」 「やさしそうなおばあさんは，お年寄りは大切だからです。」 「お世話になった佐藤さんは，昔からの知り合いだからだと思います。」 「コジマ君は，何を基準にして５人を分けたのでしょう。」 「見た目で分けました。」 「性別や年齢で分けました。」 「知り合いかどうか。」 「仲間分けをする基準は他にないでしょうか。」 「用事を聞いたらいいと思います。」 「どこに行くのか。」 「だれに会うのか。」	【学習例と発問例⑤】 問題場面における主人公がとった行動の理由を考える。 **主人公の心情・行動について多面的･多角的に考える**条件３．６ 「コジマくんは，どんな理由で３人を選んだか。」という発問をし，生徒が相手の様子や状況を多方面から推し量ることで，道徳的価値について多面的・多角的に捉えることができるようにした。

	５　教材を視聴し，自分との関係で，問題について考える。 「もし，あなたがコジマ君と同じ立場だったら，どの３人を先に車に乗せますか。」 **＜内容と理由を話し合う。＞** ①笑顔のすてきな女性 　乗せる：就職試験は大切。 　乗せない：交通機関のトラブルなら仕方ない。 ②やさしそうなおばあさん 　乗せる：お年寄りを優先すべきだから。 　乗せない：お年寄りだけど，試合にでるくらい元気だから。 ③お世話になった佐藤さん 　乗せる：お世話になった人は恩返しをすべきだから。 　乗せない：急ぐ用事ではなさそうだから。 ④体格のいい男性 　乗せる：体に関わることだから優先すべき。 乗せない：体格の良い男性で，心配いらない。 ⑤こわそうな男性 　乗せる：人に会わせてあげたい。 　乗せない：よくわからない人を乗せたくない。 「もう一度質問します。意見が変わってもいいです。もし，あなたがコジマ君と同じ立場だったら，どの３人を先に車に乗せますか。」 **＜話し合った後，自分の考えをまとめる。＞** 「友達の意見を聞いて，お世話になった佐藤さんを乗せることに変えました。」 「自分の意見は変わりません。」 **６　道徳的価値について，さらに考えを深める。** 「先に乗せる３人を決める上で，何か困ったことはありませんでしたか。」 「こわそうな男性は誰に会うのか知りたい。」 **７　教材を視聴し，内容を確認する。** 「こわそうな男性の急ぐ理由は，病気のお母さんに会うためだったんですね。」 「いい人だったのか。」 「こわそうな男性も乗せたくなってしまった。困った。」	【学習例と発問例⑧】 問題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考える。 **「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考え，他者と議論する** 条件５．６ 「困っている５人のうち，どの３人を優先するか。その理由は何か。」をペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させる場面を設けた。また話し合うことで自分にはなかった考え方に気付かせた。 話し合いの後，「自分ならどの３人を優先するか。」と発問し，現時点での考えをまとめた。 多くを語らなかった「こわそうな男性」の急ぐ理由を聞くことで，思いやりについて，考えをさらに深めさせた。
終末	**８　本時の学習や自己を振り返る。** 「相手を思いやるときに，どんなことを大切にしていこうと思いますか。」 「人のためを考えた行動をとりたいと思いました。自分以外の人たちが困っていたら，助けてあげたいです。助けるときには，しっかりと相手の事情を聞いてから判断したほうがいいと思いました。見た目だけで決めつけず中身を知って決めなければならないと考えました。」 **９　教師の説話を聞く。** 「今日，みなさんは思いやる相手について，少ない情報から，いろんなことを想像し，どうしたらいいか考えました。このこと自体が思いやりですね。今日は思いやりであふれた１時間でした。」	【学習例と発問例⑪】 これからの課題や目標について考える。 **最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る**　条件７ 導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「相手を思いやるとき何を大切にすべきか。」について最終的な自分の判断をまとめ，これからの課題や目標を見付けることにつなげた。

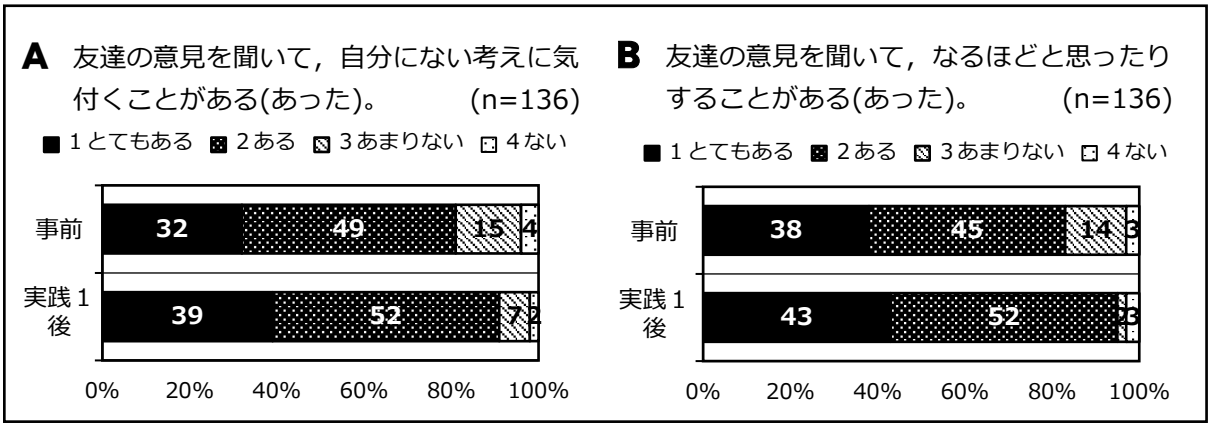
ウ　授業の検証

(ｱ)　授業実践１のワークシートの自己評価と事前アンケートから

授業の検証として，ワークシートの自己評価と事前アンケートを比較した。

①　多面的・多角的な考え方についての検証

授業実践１における多面的・多角的な考え方についての検証結果を【図２】に示す。

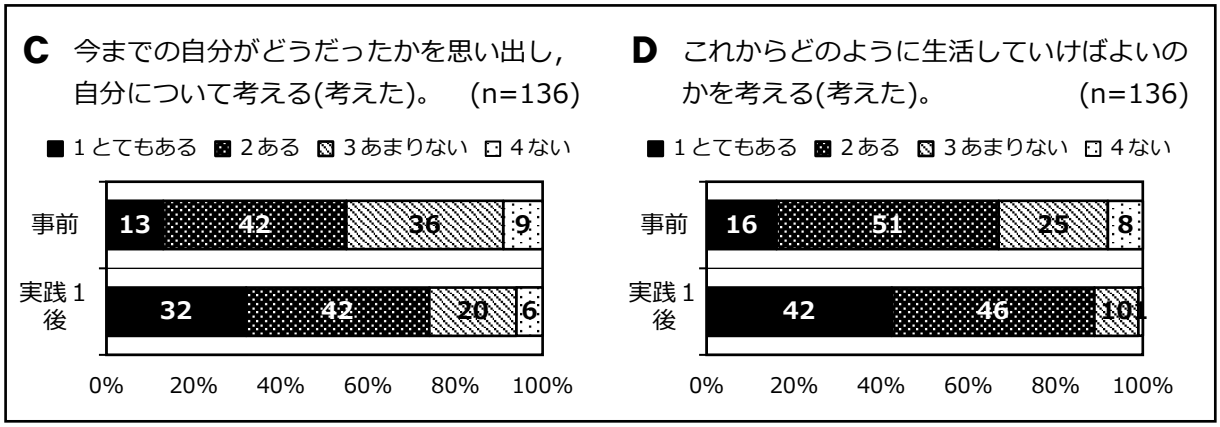


【図２】授業実践１における多面的・多角的な考え方についての検証結果

この結果から，生徒に相手の様子や状況を多方面から推し量らせ，他者と議論する場面を設定することで，「思いやり」について多面的・多角的に考えさせることができたと言える。特に，ペアで話し合うことで，生徒は根拠となる自らの考えを表出し，多様な意見に気付き，自らの意見を深めることにつながった。異なる意見に出会ったことで，自分にはなかった考え方に気付き，他者と議論する意義を感じ，道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にすることができたと考えられる。

②　自分との関わりについての検証

授業実践１における自分との関わりについての検証結果を【図３】に示す。



【図３】授業実践１における自分との関わりについての検証結果

この結果から，生徒は自分ごととして道徳的価値を捉えることができたと言える。これは，「困っている５人のうち，あなただったら，どの３人を優先するか。」と発問し，「だれを先に乗せるか。」悩んでいる主人公の行動を追体験させることを通して，自分がどのような観点で「思いやる相手」について考えているのか明らかにできたからだと考えられる。

さらに，終末段階で，学習テーマをもう一度取り上げ，「相手を思いやるとき何を大切にすべきか。」について自分の判断をまとめることは，これからの課題や目標を見つけることにつながった。授業の中で，生徒は主人公の立場や状況を自分に置き換えて考えることで，道徳的価値について，自分ごととして理解できたことを実感したと考えられる。

(ｲ)　授業実践１のワークシートの振り返り記述から

授業実践１のワークシート(３　今日の学習で感じたこと，考えたこと)の記述を**【表４】**に示す。

【表４】授業実践１における振り返り記述

A 「自分がどのように感じたり考えたりするのか」に関わる記述	B 「多様な感じ方や考え方」に関わる記述	C 自己決定に関わる記述
○人は助け合いながら生活していることが分かった。もし自分がこのような場面にあったとき，相手の立場をよく考えてうまく対処できるように心がけます。いろんな見方をすればいろいろ見えてくることが分かりました。 ○みんな色々な事情があるのに，３人しか乗せられないことを考えると，私だったら迷ってしまって決められないと思います。相手のことを考えているからこそ，迷うのだと思うけど，いつまでも迷っていたら時間が過ぎてしまいます。難しい選択ですが，すぐに行かなければならない人などということをふくめてしっかり判断することが大切だと思いました。 ○もし，自分があんな場面にあったら，どうすればよいのかとても悩んだ。相手を思いやるとき，その人の立場でひいきしてはいけないと思った。ちゃんと相手の立場を考えられるようにしたい。	○今日の学習で，自分では気付くことのないところに気付いたり，それによって意見がかわるということが分かった。また，こわそうな男性は，外見はとてもこわそうだと思っていたけど，話などを聞いたらとてもいい人だと思いました。なので，人は外見だけでは判断してはいけないということが分かりました。 ○友達の話を聞いて，そういう考えもあるのかと思いました。自分の考えをつらぬくのではなく，違う人の意見を聞き，新しい発見ができて良かったです。もし自分だったらどうするかをしっかりと考えてできました。 ○全ての人をとれないときは，優先順位を考えて行動するのも大切だと分かった。色々な人の話を聞いてみると，自分の知らなかったような事情があることも分かった。	○怖そうな男性でも，入院している母に会う用事だったり，おばあちゃんはゲートボールの試合があったりして，人はそれぞれ急いでいる理由があるから，その人たちのことも考えて，自分だけでなく，相手のことも考えた生活をこれからしたいです。 ○相手の状況や，その理由なども考えることを大切にしたいです。その相手だけではなく，その場の全員のことを考えることも大事だと思いました。 ○人のために考えた行動をとる。自分以外の人たちで困っていたら，助けてあげたいと感じた。助けるときには，しっかりと相手の事情を聞いてから判断したほうがいいと思いました。見た目だけで決めつけず中身を知って決めなければならないと考えた。

①　振り返り記述の検証

学習テーマである「思いやる相手について考える。」について具体的な記述が多く見られた。このことから，導入の段階で，教材の内容に興味や関心を持たせた上で課題を設定し，終末の段階でもう一度問いかけることは，これからの課題や目標を見付させる上で有効であったと考えられる。

②　授業を通してのまとめ

この授業では，教材や話し合いを通して，道徳的な問題を多面的・多角的に捉え，考えを深めることや，授業の前後で自分の意見が変化したことを実感できた生徒が多く見られた。このことにより，話し合うことや自分の考えを深めることの大切さを，生徒に気付かせることができたと考えられる。また，主人公の行動を追体験することで，相手の様子や状況を多方面から推し量ることこそが，相手を思いやることであることに気付き，自分ごととして道徳的価値を捉え，これからの課題や目標を見付けることができた。このことにより，議論を通して人間としての生き方について考えることにつながったと考えられる。

(2)　授業実践２について

ア　実践構想

道徳学習指導案

1　主題名　正しいことを正しいと言うには　［自主，自律，自由と責任］

教材名　裏庭のできごと　（出典　学研　「かけがえのないきみだから　１年」）

2　ねらい　正義と友情のはざまで悩み葛藤する健二の姿を通して，自ら判断し，誠実に実行しようとする心情を育てる。

3　主題設定の理由

(1)　価値について

小学校高学年の内容項目［正直，誠実］では，「誠実に，明るい心で生活すること」を目標としている。中学校では「自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと」とある。小学校における指導内容を更に発展させ，中学校では，自己の気高さに気付かせ，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。

本主題は「正義と友情のはざまで悩み葛藤する健二の姿を通して，自ら判断し，誠実に実行にしようとする心情を育てる。」ことをねらいとしている。授業では，良心の大切さに気付かせたい。良心に基づく良い行為とは，自分にとっても他者にとっても，良い行為である。この意味で，善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性を理解させることが大切である。

(2)　生徒について

新しい仲間と共に中学校生活をスタートさせ，半年が経過した。学級活動や部活動などの場面において，仲間と協力しながら積極的に取り組んでいる。しかし，仲良くしたいあまり，周囲を気にしたり，仲間の言動に左右されたりして誠実な行動をとれない生徒も見られる。また，よりよく生きたいと思いながらも，自分で適切な判断ができず安易な方向に流されてしまいがちな生徒もいる。そこで本教材を通して，自ら考え，判断し，誠実に行動することの難しさと大切さを考えさせたい。

(3)　教材について

本教材は，学研「かけがえのないきみだから　１年」に収録されている読み物教材である。

主人公の健二は，雄一，大輔の三人で遊んではいけないと分かっていながらも，学校の裏庭でサッカーをはじめてしまう。しばらくたってから，鳥のヒナを襲おうとする猫が三人の目に入る。ヒナを助けようとした雄一が蹴ったボールで，学校の窓ガラスが割れてしまう。すぐに雄一は，先生に報告に行く。残った二人はまたサッカーを続け，もう一枚ガラスを割ってしまう。大輔は先生に上手く言い訳をし，二枚とも雄一が割ったことにしてしまう。健二は大輔の言い訳の口車にのって，先生に事実を言えずにいるという内容である。

(4)　指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から，道徳的価値の実現は容易ではないことを理解し，道徳的価値を実現するために何を大切にしたらよいか考える授業とする。授業の学習テーマを「正しいことを正しいと言うには。」と設定する。教材を通して，良心に従い誠実に実行しようとする心情を育てたい。そこで，本教材を通して，正しいことは分かっているが，それを行おうとすると友情に傷がつくかもしれないという主人公の葛藤に共感させたい。特に，正義と友情のはざまで悩み，葛藤する健二の姿を通して，このようなことは，私たちの生きる現実の社会の中でも起こり得ることに気付かせたい。さらに，同じような場面に遭遇したときに，どういう行動を取るべきかを考え，さらにその裏付けとなる心情を考えることで，良心に従い誠実に実行することの難しさを理解し，実現しようとする心情を育てたい。

4　研究との関わり

(1)　主体的に道徳性を育むための指導の工夫

ア　課題意識・見通し

導入では，自分ごととして道徳的価値を捉えることができるように，「正しいと思っているのに，正しいと言えなかったことはあるか。」と発問し，生活経験を振り返る。さらに学習テーマを「正しいことを正しいと言うには。」と設定し，本時の方向性を確認する。

教材は，自分ごととして道徳的価値を捉えることができるように，主人公が中学生で，同様のことが学校生活で起きることが予想される出来事について書かれたものを使用する。

展開前段では，「先生に言いに行こうとするが，行けない健二をどう思いますか。」という発問をし，道徳的価値について多面的・多角的に捉えることができるようにする。さらに，ペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める工夫を行う。

イ　学習活動・振り返り

展開後段では，主体的に道徳的価値について考えさせるために，「このあと，あなたが健二なら先生のところに行けますか。」と発問し，理由を考えさせることで，自分ごととして問題を捉えさせ，誠実な行動を取ることの難しさについて自分がどのように考えているのか明らかにする場面を設ける。

終末では，謝罪に行こうとしているが行けない健二に対して，なんと声をかけるか問うことで，「誠実な行動」についてさらに考えを深めさせる。そして，導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「正しいことを正しいと言うにはどんなことを大切にしたらよいだろうか。」について問い直すことで，最終的な自分の判断をまとめ，学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

(2)　問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

導入	**○教材や日常生活から道徳的な問題を見つけ，学習テーマを共有する。** 条件４	
	【学習例と発問例③】 生活経験を振り返る。	【発問】 「相手に対して，自分が正しいと思っていることなのに，言えなかったことはありますか。」
展開	**○問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。（他者と議論する）** 条件３，６	
	【学習例と発問例⑥】 問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。	【発問】 「先生に言いに行こうとするが，行けない健二をどう思いますか。」
	○「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える。 条件５，６	
	【学習例と発問例⑧】 問題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考える。	【発問】 「あなたが健二なら，先生に言いに行けますか。」
終末	**○最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る。** 条件７	
	【学習例と発問例⑪】 これからの課題や目標について考える。	【発問】 「正しいことを正しいと伝えるには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」

イ　本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	**1　自分の生活を振り返り，問題意識をもつ。** 「相手に対して，自分が正しいと思っていることなのに，言えなかったことはありますか。」 「例えば，掃除の時間に担当の先生に注意されたのに，担任の先生に班の仲間が，しっかりやったと報告してしまい，言い出せなかったことはありますか。」 「あるかもしれない。」 「ないと思う。」 **2　本時の学習の方向性を確認する。** 「今日は『正しいことを正しいと伝えるにはどうしたらよいか』を考えていきましょう。」 **3　教材を読み，あらすじを確認する。** 「あらすじを確認します。主人公の健二です。 健二は，雄一，大輔の三人で遊んではいけないとわかっていながらも，学校の裏庭でサッカーをはじめます。鳥のヒナを襲おうとする猫が三人の目に入ります。ヒナを助けようとした雄一が蹴ったボールで，学校の窓ガラスが割れてしまいます。すぐに雄一は，先生に報告に行きます。残った二人はまたサッカーを続け，もう一枚ガラスを割ってしまいます。大輔は先生に上手く言い訳をし，二枚とも雄一が割ったことにしてしまいます。健二は大輔の言い訳の口車にのって，先生に事実を言えずにいます。	【学習例と発問例③】 生活経験を振り返る。 **学習テーマを共有する**　条件４ 自分ごととして道徳的価値を捉えることができるように，「正しいと思っているのに，正しいと言えなかったことはあるか。」と発問し，生活経験を振り返る。さらに学習テーマを「正しいことを正しいと言うには。」と設定し本時の方向性を確認する。 教材は，より自分ごととして捉えることができるように，主人公が中学生で，学校生活でも同様のことが起きることが予想される出来事について書かれてあるものを使用する。
展開	**4　主人公の気持ちや行動について考える。** 「先生に言いに行こうとするが，行けない健二をどう思いますか。」 **＜判断と理由を考える＞** **＜内容と理由を話し合う＞** 「仕方ないと思います。言うタイミングがなかった。翌日になっているから，さらに怒られる。」 「仕方ないと思います。大輔に止められているからです。」 「仕方ないと思います。大輔に『行くなよ』と言われているから，なかなか自分では言い出せないと思う。」 「良くないと思います。割ったのだから，正直に話すべきだからです。」 「良くないと思います。謝っている雄一に悪いし，合わせる顔がないからです。」	【学習例と発問例⑥】 問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。 **主人公の心情・行動について多面的･多角的に考える。** **他者と議論する**　条件３．６ ペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める。

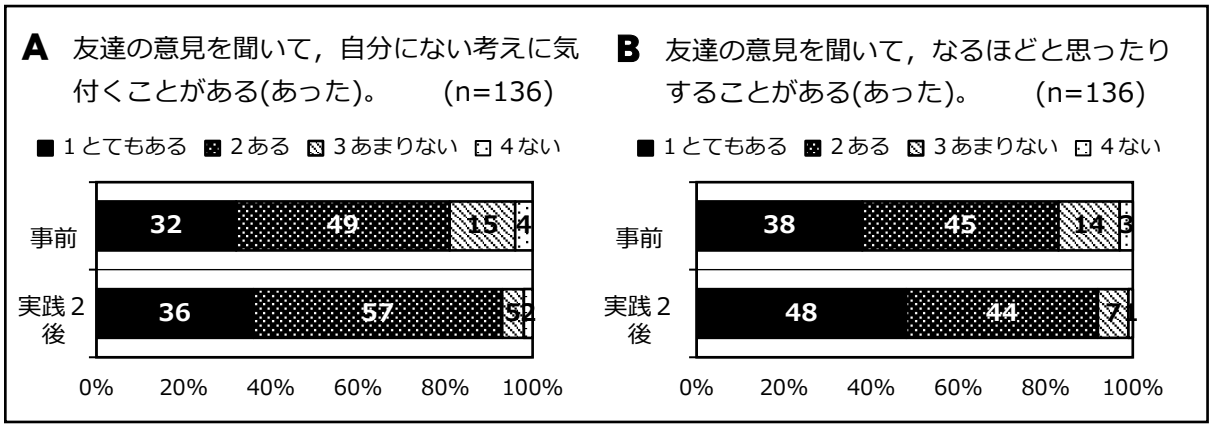
	５　自分との関係で，問題について考える。 「あなたが健二なら，先生に言いに行けますか。」 「行ける。理由は大輔には悪いけど，ごまかすのは良くないからです。」 「行きます。正直に話すべきだと思うからです。雄一にも悪いし，自分のしたことだから，謝るべきだと思います。」 「行けない。もう済んだことだからです。」 「大輔のいないところで，勝手に行けない。」 **６　道徳的価値について，さらに考えを深める。** 「健二は，謝りに行こうと思っています。あなたが，健二の友達だったら何とアドバイスしてあげますか。」 「行った方がいいよ。悪いとわかっているなら，話した方がいいよ。」 「雄一の気持ちも考えて。悩んでいても，何もしなかったら，やらないのと一緒だよ。」 「もっと罪が重くなるよ。」	【学習例と発問例⑧】 問題を自分との関係で捉え，その解決に向けて考える。 **「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える**　条件５．６ 主体的に道徳的価値について考えさせるために，「誠実な行動」について生徒がどのように考えているのか明らかにする。 謝罪に行こうとしているが行けない健二に対してなんと声をかけるか問うことで，「誠実な行動」について，さらに考えを深めさせる。
終 末	**７　本時の学習や自己を振り返る。** 「正しいことを正しいと伝えるには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」 「正しいことを言わずに，間違ったままでいると，あとから大変になると思うので，言い出せなくても，この先のことを考えて，正しいことを話したほうがいいと思いました。なので，私もこれから正しいことをすぐ言えるようにしていきたいです。」 **８　教師の説話を聞く** 「今日，みなさんは正しいことを言うためについて，どうしたらいいか考えました。「悪いとわかっているなら行動にする。悩んでいても，何もしなかったら，やらないのと一緒だ。」などの意見がでました。正しいことを正しいと言うためには，誠実であろうとする気持ちを大切にしていきたいものですね。」	【学習例と発問例⑪】 これからの課題や目標について考える。 **最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る**　条件７ 前段で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「正しいことを正しいと言うには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」について，最終的な自分の判断をまとめ，学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

ウ　授業の検証

(ｱ)　授業実践２のワークシートの自己評価と事前アンケートから

①　多面的・多角的な考え方についての検証

授業実践２における多面的・多角的な考え方についての検証結果を【図４】に示す。



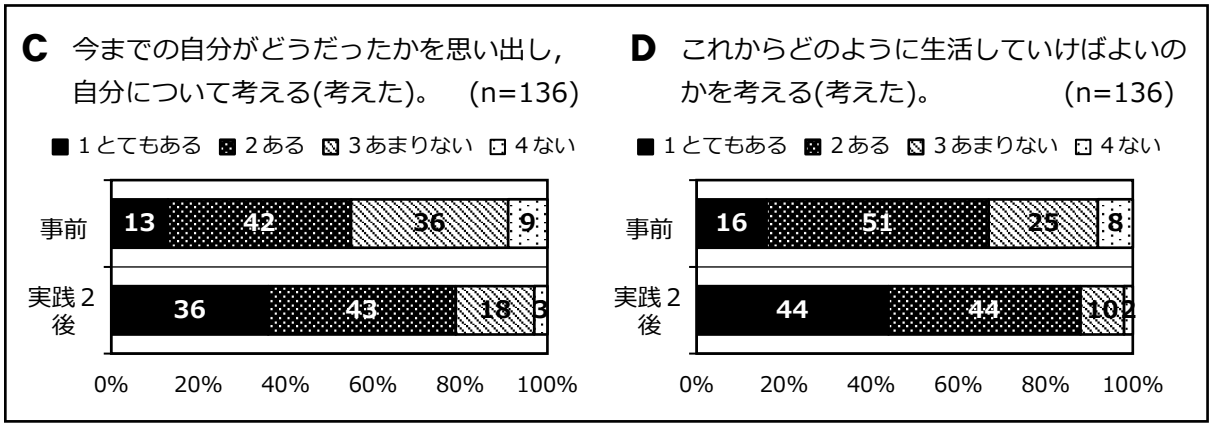
【図４】授業実践２における多面的・多角的な考え方についての検証結果

この結果から，「正直・誠実」について多面的・多角的に考えたと言える。これは，「先生に言いに行こうとするが，行けない健二をどう思いますか。」と発問し，生徒に健二の様子や状況を多方面から推し量らせ，他者と議論する場面を設定することで，自分がどのような観点で「善悪の基準」について考えているのか明らかにできたからだと考えられる。

特に，ペアで話し合うことで，生徒は根拠となる自らの考えを表出し，多様な意見に気付き，自らの意見を深めることにつながった。生徒は議論を通して，異なる意見に出会う意義を感じ，道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にすることができたと考えられる。

②　自分との関わりについての検証

授業実践２における自分との関わりについての検証結果を【図５】に示す。



【図５】授業実践２における自分との関わりについての検証結果

この結果から，生徒は自分ごととして道徳的価値を捉えることができたと言える。展開後段で，「このあと，あなたが健二なら先生のところに行けますか。」と発問し，理由を考えさせたところ，どの学級でも，「謝罪すべきだとは思うが，自分だったら誠実な行動はとれない。」と答える生徒が見られた。これは，生徒が問題を自分ごととして捉えて考えていたからこそである。そこで，「あなたが，健二の友達だったら何とアドバイスしてあげるか。」と発問した。この発問を通して誠実な行動をとるためにはどうすればよいか，学級全体で考えたことで，道徳的価値について自分ごととして理解することにつながったと考えられる。

(ｲ)　授業実践２のワークシートの振り返り記述から

授業実践２のワークシート(３　今日の学習で感じたこと，考えたこと)の記述を【表５】に示す。

【表５】授業実践２における振り返り記述

A 「自分がどのように感じたり考えたりするのか」に関わる記述	B 「多様な感じ方や考え方」に関わる記述	C 自己決定に関わる記述
○先生に言いに行けないということは，もっと罪が重くなったりうそついてのがれても，後からバツがくるから，先生のところに行って罪を軽くすれば少しは良くなると思う。自分だったら先生に言う。 ○こんな場面にあったとき，私は自分のやったことをきちんと自分で後始末するのが正しいと思う。それが雄一にとっても，大輔にとっても，一番だと思う。 ○もし，自分が健二の立場に立っていたら，謝りにいくとは思うけどその前に誘惑に負けなければこんなことが起きなかったし，健二もこんなに迷わずに済んだので，最初は軽くやっていたことからはじまるので，先のことを考えて動くことが大切だと思いました。	○なにか悪いことをしたら，少し時間がたっていても，あやまりに行かなければいけないと思った。行けない気持ちがあるのが分かり，なるほどと思った。 ○自分で，正しくないことをしたのだから，しかられるのは当たり前だと思った。（考えが変わった）しかられて成長していくのだから，そこを気をつけて，また一歩進んでいけばいいと思う。しかられるのは，だめなことではなく，いいことだと思う。 ○かくし事をしないで，はっきりと答えを出した方がいいと思った。そして自分や友達の都合の良い事情で事を終わらせることは，後から後悔したり，あの時こうすれば良かったというモヤモヤがずっと続くのだと気付いた。	○健二が先生に言いに行こうとしても，行く勇気がないけど，でも，自分ではそうした方がいいと思うなら，言ったほうがいいと思った。自分がもしこういうことを起こしたら，謝りに行きたいと思います。 ○自分がしてしまったことは，ちゃんと謝る。今，謝ればそんなに怒られない。でもそのことを放っておくと，そのことがばれてすごく怒られることが分かった。私も次から，悪いことをしたら，すぐ謝れるようにしたい。 ○正しいことを言わずに，間違ったままでいると，あとから大変になると思うので，言い出せなくても先のことを考えて，正しいことを話したほうがいいと思いました。なので，私もこれから正しいことをすぐ言えるようにしていきたいです。

①　振り返り記述の検証

学習テーマである「正しいことを正しいと伝えるには。」について具体的な記述が多く見られた。このことから，導入の段階で，教材の内容に興味や関心を持たせた上で課題を設定し，終末の段階でもう一度問いかけることは，これからの課題や目標を見付けさせる上で有効であったと考えられる。

②　授業を通してのまとめ

この授業では，教材の特性や発問の工夫により，主人公が抱える問題を，自分ごととして捉えた生徒が多く見られた。このことから，「もし，自分なら」と考えることは，自分にとって大切であると生徒に感じさせることができたと考えられる。また話し合いを通して，善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方に気付いたことで，自分がどのような観点で「善悪判断の基準」について考えているのか明らかになり，他者と比較しながら，他者と共によりよく生きるためにこれからの課題や目標を見つけることができた。このことにより，多面的・多角的に問題を捉えることの重要性に気付き，人間としての生き方について考えることにつながったと考えられる。

(3)　授業実践３について

ア　実践構想

道徳学習指導案

１　主題名　命あるものとの向き合い方を考える［生命の尊さ］
　　教材名　サルも人も愛した写真家（出典　NHK 道徳ドキュメント１　キミならどうする？）

２　ねらい　野生生物と人間の共存についての葛藤を通して，自然の生命に対する考えを深めるとともに，他の生命を尊重する態度を養う。

３　主題設定の理由

(1)　価値について

小学校高学年の内容項目［生命の尊さ］では，「生命が多くの生命のつながりにあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること」を目標としている。中学校では「生命の尊さについて，その連続性や有限性なども含めて理解し，かけがえのない生命を尊重すること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ，中学校では，人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ，生命ある物は互いに支え合って生き，生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが大切である。

本主題では，「野生生物と人間の共存についての葛藤を通して，自然の生命に対する考えを深めるとともに，他の生命を尊重する態度を養う。」ことをねらいとしている。そこで，それぞれの生命体が唯一無二の存在であること，しかもそれは全て生きているということにおいて共通であるということなどの学習を通して，自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに，他の生命も尊重する態度を身に付けさせたい。

(2)　生徒について

新しい仲間と共に中学校生活をスタートさせ，半年が経過した。学級活動や部活動などの場面において，仲間と協力しながら積極的に取り組んでいる。９月に行われた「心の健康」講演会では，自分もまわりの人もかけがえのない存在であるということを学んだ。知識として命の大切さを理解しているが，実感が乏しい生徒が多くいる。

そこで本教材を通して，自らの生命の大切さとともに，他の生命も尊重しようとする態度を育てたい。

(3)　教材について

本教材は，NHK「道徳ドキュメント」による映像教材である。この番組の目的は，実際にあった出来事や人生体験を取り上げ，現実の問題と向き合いながら道徳を考えることをとして制作されている。

主人公は，ニホンザルに魅了され，移住してまで撮り続けてきた動物写真家松岡史郎さんである。青森県下北半島に生息するニホンザルは，世界で最も寒い地域に住むサルとして，国の天然記念物に指定されている。このことから，サルの住む村では保護政策を推進した。しかし，長年の保護の結果，ニホンザルは数を増やし，食べ物を求めて畑を荒らすなど住民の生活を脅かすようになってきた。やむを得ず住民はニホンザルの駆除のため，松岡さんに協力要請する。サルの性格や顔をよく知っている松岡さんは，薬殺するサルを見分けてもらいたいと頼まれるという内容である。

青森県下北半島に生息するニホンザルの問題は，『私たちの道徳』でも「私たちの生活から，野生動物の保護を考える」というテーマで取り上げられている。松岡さんや村の人，サルというように複数の視点で描かれていることから，本教材を使用した。

(4)　指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から，道徳的価値について人間としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考える授業とし，学習テーマを「命あるものとの向き合い方を考える。」と設定する。教材を通して，難しい決断に迫られる主人公に共感させ，自らの生命の大切さと同じように，他の生命を尊重する態度を育てたい。そこで，まず野生生物と人間の共存について考えさせたい。映像を視聴させ，松岡さんのサルへの深い愛情と，写真家として一生下北半島のサルを撮り続けるという情熱を感じさせたい。ともすれば，人間が自然の主として存在していると考えてしまう生徒もいるかもしれない。そこで，松岡さんのサルや自然への愛情について深く考えることで，人間は自然の中で生かされていることを謙虚に受け止めさせたい。さらに，答えの見つからない課題に対して，悩む松岡さんに共感させたい。松岡さんは，サルを殺してほしくない気持ちと，農作物を荒らすサルを駆除するのは致し方ないという気持ちで葛藤する。授業では，生命を尊重しようとする気持ちは，人間誰しもが備わっていることに気付かせ，自らの生命の大切さとともに，他の生命も尊重しようとする態度を育てたい。

4　研究との関わり

(1)　主体的に道徳性を育むための指導の工夫

ア　課題意識・見通し

教材は，難しい事態に直面した人が何を考え，どう判断し，行動したのかを描いた番組を使用する。番組は，生徒が自分自身のこととして問題に向き合い考えられるように，分割して提示できるよう構成されている。

導入では，学習テーマを「命あるものとの向き合い方について考える。」と設定し，実際に起きている問題を取り上げることを伝え，学習の意欲を喚起する。

展開前段では，「サルの駆除に協力することを頼まれた松岡さんは，この後どうしたでしょうか。」と発問をし，生徒に松岡さんと自分を重ねて考えさせ，答えの見つからない課題に対して，悩む松岡さんに共感させたい。さらに，ペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める工夫を行う。

イ　学習活動・振り返り

展開後段では，道徳的価値について多面的・多角的に捉えるために，「愛したサルの最期を見届け，命と向き合った松岡さんをどう思いますか。」と発問し，理由を考えさせることで，自らの生命の大切さと同じように他の生命を尊重しようとする態度を育てたい。

終末では，さらに考えを深めさせるために，害虫供養を毎年行っている製薬会社の新聞記事を紹介する。これにより，生命を尊重しようとする気持ちは，今回の松岡さんだけに限ったことではなく，誰しも備わっていることに気付かせる。さらに，導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「命あるものとの向き合い方」について，最終的な自分の判断をまとめ，これからの課題や目標を見付けることにつなげる。

(2)　問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

<table>
<tr><td rowspan="2">導入</td><td colspan="2">○教材や日常生活から道徳的な問題を見つけ，学習テーマを共有する。　条件４</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例②】
教材の内容に興味や関心をもつ。</td><td>【発問】
「命あるものとの向き合い方について考えてみよう。」</td></tr>
<tr><td rowspan="4">展開</td><td colspan="2">○「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える。
（他者と議論する）　条件５，６</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑦】
問題解決に向かう主人公について考える。</td><td>【発問】
「サルの駆除に協力することを頼まれた松岡さんは，この後どうしたでしょうか。」</td></tr>
<tr><td colspan="2">○問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。　条件３，６</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑥】
問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。</td><td>【発問】
「愛したサルの最期を見届け，命と向き合った松岡さんをどう思いますか。」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">終末</td><td colspan="2">○最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る。　条件７</td></tr>
<tr><td>【学習例と発問例⑩】
学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。</td><td>【発問】
「命との向き合い方についてどんなことを考ましたか。」</td></tr>
</table>

イ　本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	**1　本時の課題に関わる問題意識をもつ。** 「今日のテーマは命との向き合い方についてです。実際に起こった出来事を通して考えます。私はとても悩みました。そしてみなさんがどんなことを考えるのか知りたくなりました。」 **2　本時の学習の方向性を確認する。** 「今日は『命あるものとの向き合い方』について考えていきましょう。」 **3　教材を視聴し，あらすじを確認する。** 「あらすじを確認します。ニホンザルに魅了され，移住してまで撮り続けてきた動物写真家松岡史郎さんが主人公です。青森県下北半島に生息するニホンザルは,「北限のサル」と呼ばれ，国の天然記念物に指定されていました。しかし，長年の保護の結果，ニホンザルは数を増やし，食べ物を求めて畑を荒らすようになってしまいました。やむを得ず住民はニホンザルの駆除のため，松岡さんに協力要請します。サルの性格や顔をよく知っている松岡さんは，薬殺するサルを見分けてもらいたいと頼まれました。」	**【学習例と発問例②】** 教材の内容に興味や関心をもつ。 **学習テーマを共有する**　条件４ 導入では，本時の学習テーマを「命あるものとの向き合い方について考える。」と設定し，実際に起きている問題を取り上げることを伝え，学習の意欲を喚起する。 教材は，難しい事態に直面した人が何を考えどう判断し，行動したのかを描いた番組を使用し，生徒が自分自身のこととして問題に向き合い，考えることができるものを使用した。
展開	**4　主人公の気持ちや行動について考える。** 「サルの駆除に協力することを頼まれた松岡さんは，この後どうしたでしょうか。」 **＜判断と理由を考える＞** **＜内容と理由を話し合う＞** 「協力したと思う。このままだと人間の迷惑になってしまう。村の人のために限られたサルだけなら，駆除に協力したと思う。」 「協力する。見分けられるのは，自分しかいないと思うから。」 「協力した。協力しないと，他のサルも無差別に殺されてしまうから。」 「協力しない。サルを殺すのはつらすぎる。移住までして，サルを愛しているからできないと思う。」 「協力しないと思う。殺すためにかわいがって名前をつけていたわけじゃない。」 **5　教材を視聴し，自分との関係で，問題について考える。** 「松岡さんの命との向き合い方に注目して見ましょう。」 「松岡さんは，他のサルが安心して暮らすために，困っている住民のために，両方の立場を考えて行動しました。そして最期の場面まで立ち会いました。それが松岡さんの『命との向き合い方』でした。」	【学習例と発問例⑦】 問題解決に向かう主人公について考える。 **「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考え，他者と議論する** 条件５．６ 生徒に松岡さんと自分を重ねて考えさせ，同じような場面に遭遇したときに，どういう行動をとるべきかを考えさせる。さらに，ペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める工夫を行う。話し合うことで自分にはなかった考え方に気付かせる。

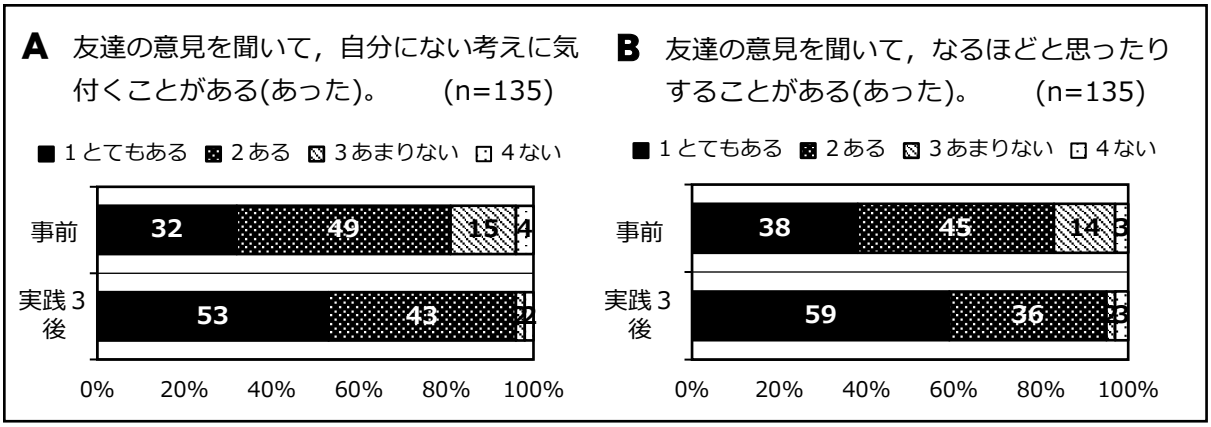
	「松岡さんは，ハナピにどんな言葉をかけていたと思いますか。」 「ごめんよ。人間のせいでこんなことになって。」 「愛したサルの最期を見届け，命と向き合った松岡さんをどう思いますか。」 「映像で捕まったサルを見て，本当にかわいそうだと思いました。私がこういう風に思うのだから，松岡さんはもっと辛かったと思います。そこまでして，命と向き合うことができる松岡さんは本当にサルを大事にしていたのだと思いました。」 **6　道徳的価値について，さらに考えを深める。** 「この問題は，依然として解決されていません。この問題の他にも，人間の生活のために亡くなっている命があります。ここで新聞記事を紹介します。製薬会社の人たちが，実験で殺してしまった害虫たちのために，毎年供養をしているそうです。こうして命と向き合っている人たちもいます。」	【学習例と発問例⑥】 問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。 **主人公の心情・行動について多面的･多角的に考える**条件３．６ 判断することの難しさと大切さを実感させ，自らの生命の大切さと同じように，他の生命を尊重しようとする態度を育てたい。 害虫供養を毎年行っている製薬会社の新聞記事を紹介する。これにより，生命を尊重しようとする気持ちは，今回の松岡さんだけに限ったことではなく，誰しも備わっていることに気付かせる。
終 末	**7　本時の学習や自己を振り返る。** 「今日の授業を通して，命あるものとの向き合い方について考えたことを書きましょう。」 「命との向き合い方はとても難しいことだと思います。理由は人とサルどちらにも命があり，判断でサルを殺すか，村人の生活を苦しめるかの選択で迷い，それを決めるのは，松岡さん１人だけなので，僕は難しいと思いました。これからは命との向き合い方を大切に，人間のために亡くなった生き物に感謝して生活していきたいです。」 「２つのどちらかを選ばなければいけないときは，つらくてもどちらかを必ず選ばなくてはいけない。悩んだりするかもしれないけれど，強い人になり選ぶことが大切。どちらかのことを思って選ぶのではなく，どちらの立場のことも考えて選ぶことが大切なことだと思う。」 **8　教師の説話を聞く。** 「今日，みなさんは命あるものとの向き合い方について，考えました。人間の都合のために，殺されていい命はありません。でも私たちが気付かないだけで，奪われている命があります。今日をきっかけに，これからもその命に目を向けて生活していってほしいと思います。」	【学習例と発問例⑩】 学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。 **最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る**　条件７ 導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「命あるものとの向き合い方」について，最終的な自分の判断をまとめ，学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

ウ　授業の検証

(ｱ)　授業実践３のワークシートの自己評価と事前アンケートから

①　多面的・多角的な考え方についての検証

授業実践３における多面的・多角的な考え方についての検証結果を【図６】に示す。



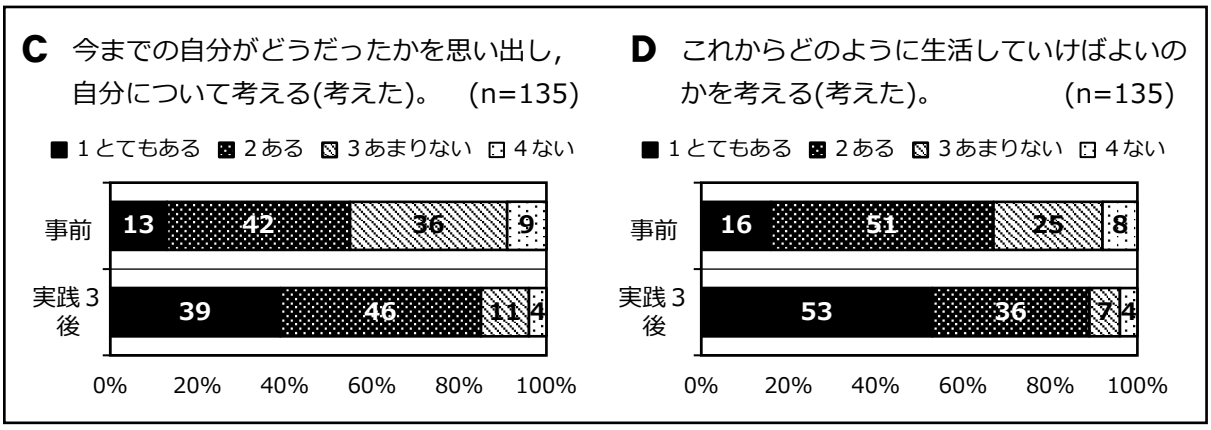
【図６】授業実践３における多面的・多角的な考え方についての検証結果

この結果から，「生命の尊重」について多面的・多角的に考えたと言える。これは，「サルの駆除に協力することを頼まれた松岡さんは，この後どうしたでしょうか。」と発問し，生徒に松岡さんの様子や状況を多方面から推し量らせ，他者と議論する場面を設定することで，自分がどのような観点で「生命の尊重」について考えているのか明らかにできたからだと考えられる。

特に，ペアで話し合うことで，生徒は根拠となる自らの考えを表出し，多様な意見に気付き，自らの意見を深めることにつながった。議論を通して生徒は，異なる意見に出会う意義を感じ，道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にすることができたと考えられる。

②　自分との関わりについての検証

授業実践３における自分との関わりについての検証結果を【図７】に示す。



【図７】授業実践３における自分との関わりについての検証結果

この結果から，生徒は自分ごととして道徳的価値を捉えることができたと言える。展開前段で「サルの駆除に協力することを頼まれた松岡さんは，この後どうしたでしょうか。」という発問をすることで，生徒は松岡さんと自分を重ねて合わせて考えることができた。さらに，松岡さんの判断がどのような理由によるものなのか，そのよりどころを明らかにすることで，自分自身を振り返り，自らの価値観を問い直すことができたと言える。終末において，学習テーマをもう一度取り上げ，「命あるものとの向き合い方」について最終的な自分の判断をまとめることは，これからの課題や目標を見付けることにつながったと考えられる。

(ｲ)　授業実践３のワークシートの振り返り記述から

授業実践３のワークシート(３　今日の学習で感じたこと，考えたこと)の記述を【表６】に示す。

【表６】授業実践３における振り返り記述

A 「自分がどのように感じたり考えたりするのか」に関わる記述	B 「多様な感じ方や考え方」に関わる記述	C 自己決定に関わる記述
○松岡さんは人間なので，人間の生活を優先するのは当たり前です。でも兵庫からわざわざ青森に移住してきたくらい愛しているサルたちなので協力したくなかったと思います。私だったら，ぜったい無理です。私も犬を飼っているので，松岡さんもサルを家族だと思っているはずなので，気持ちが伝わってきました。私の犬を自分の手で死に導かせるということを，想像するととても悲しいです。なので，松岡さんはすごいなと思いました。 ○自分の大切にしていたものが殺されてしまうことや，長年，人生を共に歩んだ奴を失うことはとても悲しい。自分も友達が死んだり，家族が死ぬのは現実と思いたくない。自分と松岡さんを比べても，そうとう松岡さんの方が悲しい思いをこれまでしてきているが，今は前を向いて進んでいる。とてもすごい。これからもそういう人生を松岡さんは歩んでいく。自分はそういう人生を送ることはできないけど，思いを考えることはできる。これからも，人の思いを考えていきたい。	○私だったら絶対に協力したくないけど，サルを愛し続けた松岡さんだからこそ，駆除することができたのではないかなと私もクラスの人の発言をきいて思いました。そして，私が農家の人たちの立場にたったらどう思うかを考えたら，それはそれでやっぱりイヤだなと思いました。しかし，サルの立場にたった時は，サルはサルで生きているんだ。たったひとつの大事な命を殺されるのはイヤだなと思いました。だから，どの立場にたっても納得はいかないなと思いました。 ○人には色んな見方があって松岡さんのようにサルを好きな人もいれば，農家の人のように邪魔をされるという見方もあると思う。色んな人がサルに被害を受けて下した決断が殺すことであっても松岡さんは，人やサルのことを大事に考えてルールに応じて駆除の協力することが自分の最善なのではないかと考えたと思う。	○２つのどちらかを選ばなければいけないときは，つらくてもどちらかを必ず選ばなくてはいけない。悩んだりするかもしれないけれど，強い人になり選ぶことが大切。どちらかのことを思って選ぶのではなく，どちらの立場のことも考えて選ぶことが大切なことだと思う。私もこれからは，しっかりと悩んでから，物事を運びたいと思った。 ○命との向き合い方はとても難しいことだと思います。理由は人とサルどちらにも命があり，判断でサルを殺すか，村人の生活を苦しめるかの選択で迷い，それを決めるのは，松岡さん１人だけなので，僕は難しいと思いました。これからは命との向き合い方を大切に，人間のために亡くなった生き物に感謝して生活していきたいです。

①　振り返り記述の検証

学習テーマである「命あるものとの向き合い方について考える。」について具体的な記述が多く見られた。このことから，導入の段階で，教材の内容に興味や関心を持たせた上で課題を設定し，終末の段階でもう一度問いかけることは，これからの課題や目標を見つけさせる上で有効であったと考えられる。

②　授業を通してのまとめ

この授業では，「松岡さん」，「村の人」，「下北のサル」のそれぞれの立場に立って考えようとする姿が多く見られ，「生命の尊さ」について多角的に捉えるのに有効な教材や発問の工夫，話し合い活動であったと言える。また，展開後段で，松岡さんが捕まったサルに話しかけている様子や，最期に立ち会ったことに注目させ，命について深く見つめる場面を設定したことで，「生命の尊重」について深く考えさせることができた。振り返りでは，発問していないにも関わらず，これからの生き方や，自分なりの生命尊重の思いを記述している生徒も見られ，授業を通して「自分がどうしていけばよいか」について考える自然な流れを作ることができた。以上のことから，議論を通して人間としての生き方の関わりから道徳的価値について深めることにつながったと考えられる。

(4)　授業実践４について

ア　実践構想

道徳学習指導案

1　主題名　自分をコントロールするには［節度，節制］

教材名　釣りざおの思い出　（出典　学研「かけがえのないきみだから　１年」）

内なる敵　（出典　文部科学省「私たちの道徳」）

2　ねらい　自分勝手な考えで時間を守らなかった主人公の行動を通して，衝動に流されることなく，自制することの大切さに気付かせ，節度を守り節制を心掛けようとする態度を養う。

3　主題設定の理由

(1)　価値について

小学校高学年の内容項目［節度，節制］では，「安全に気をつけることや，生活習慣の大切さについて理解し，自分の生活を見直し，節度を守り節制に心掛けること」を目標としている。中学校では「望ましい生活習慣を身に付け，心身の健康の増進を図り，節度を守り節制に心掛け，安全で調和のある生活をすること」とある。小学校における指導内容を更に発展させ，中学校では，充実した人生を送る上で，望ましい生活習慣を身に付けることなどが欠かせないものであることを自覚させる必要がある。自らの欲望や衝動の赴くまま行動してしまい，心身の健康を損ねることのないようにしなければならない。そのためには，そうした状況に至らない適度な程度としての「節度」を意識し，その節度を超えないように欲望を抑え，自己を統御する「節制」が求められる。

(2)　生徒について

中学校１年生は，中学生になったという意識も働き，これまで身に付けてきた基本的な生活習慣や，交通安全等の安全に関わる活動に対し，ためらったり，軽く考えたりすることも起きてくる。そんな中学生に対して，小学校段階からの節度・節制の大切さについての理解を一層深めるとともに，単に日々の生活だけの問題ではなく，自らの生き方そのものの問題であり，人生をより豊かなものにすることとの関係で考えさせたい。

(3)　教材について

本教材は，学研「かけがえのないきみだから　１年」に収録されている読み物教材である。

主人公は，釣りが大好きな「わたし」であり，少年時代の思い出を描いている。ある日，母が無理をして，主人公がずっと憧れていた釣りざおを買ってくれた。そのさおで釣りに出かける日，父から，釣りは来週にしないかと言われる。実はいとこの正ちゃんの容態がおもわしくなく，見舞いにいこうという話であった。しかし，主人公は父の提言を受け入れず，また母とは軽い気持ちで帰宅時間を約束し，一日中釣りに夢中になってしまった。途中で約束の時間に気付いたが，結局釣りを続けてしまう。家に帰ってその釣果を母に見せようとしたが，母はその場で釣りざおを折ってしまった。

主人公の弱さに気付かせるため，『私たちの道徳』にある「内なる敵」を紹介し，理解を深める。

(4)　指導にあたって

生徒の実態と教材の特質から，道徳的価値の実現は容易ではないことを理解し，道徳的価値を実現するために何を大切にしたらよいか考える授業とする。授業の学習テーマを「自分をコントロールするには。」と設定する。教材を通して，自分の弱さに負けないように自制し，節度を守り節制を心掛けようようとする態度を育てたい。そこで，憧れの釣りざおで釣りに行くことに気持ちをとられ，約束の時間を過ぎても釣りを続けてしまう主人公の弱さに共感させる。さらに，釣りざおを折る母を見つめる主人公に自分を重ねて考えることで，時間や約束を大切にすること，節度を意識し自制することは，自らの生き方そのものの問題であり，人生をより豊かなものにすることであることに気付かせたい。

4　研究との関わり

(1)　主体的に道徳性を育むための指導の工夫

ア　課題意識・見通し

導入では，自分ごととして道徳的価値を捉えることができるように，「自分をコントロールできなかったことはありませんか。」と発問し，生活経験を振り返る。さらに学習テーマを「自分をコントロールするには。」と設定し本時の方向性を確認する。

展開前段では，「『最後の一匹を釣ったら帰ろう』と思って釣りを続けるわたしをどう思いますか。」という発問をし，道徳的価値について多面的・多角的に捉えることができるようにする。さらに，ペアで話し合わせることにより，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める工夫を行う。

イ　学習活動・振り返り

展開後段では，主体的に道徳的価値について考えさせるために，「釣りざおを折る母の涙を見て，私はどんなことを思いましたか。」と発問する。このことにより，自分ごととして問題を捉えさせ，自分に都合の良い言い訳をして，自分の弱さに負けてしまった主人公に気付かせたい。

終末では，導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「自分をコントロールするには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」と問い直すことで，最終的な自分の判断をまとめ，学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

(2)　問題解決的な学習を取り入れた授業における基本となる学習指導過程

導入	**○教材や日常生活から道徳的な問題を見つけ，学習テーマを共有する。** 条件４	
	【学習例と発問例③】 生活経験を振り返る。	【発問】 「自分をコントロールできなかったことはありますか。」
展開	**○問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考える。（他者と議論する）** 条件３，６	
	【学習例と発問例⑥】 問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。	【発問】 「『最後の一匹を釣ったら帰ろう』と思って釣りを続ける私をどう思いますか。」
	○「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える。 条件５，６	
	【学習例と発問例⑦】 問題解決に向かう主人公について考える。	【発問】 「釣りざおを折る母の涙を見て，私はどんなことを思いましたか。」
終末	**○最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る。** 条件７	
	【学習例と発問例⑪】 これからの課題や目標について考える。	【発問】 「自分をコントロールするには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」

イ　本時の実際

段階	学習活動	指導上の留意点
導入	**1　自分の生活を振り返り，問題意識をもつ。** 「自分をコントロールできなかったことはありますか。」 「やろうと思っていたのに勉強できなかったり，遊んでしまったりしたことはありますか。」 「あります。」 「あるかもしれない。」 **2　本時の学習の方向性を確認する。** 「今日は，自分をコントロールするにはどうしたらよいかを考えていきましょう。」 **3　教材を読み，あらすじを確認する。** 「あらすじを確認します。ある日，母が無理をして，わたしがずっと憧れていた釣りざおを買ってくれました。そのさおで釣りに出かける日，父から，釣りは来週にしないかと言われます。いとこの正ちゃんの見舞いにいこうという話でした。しかし，わたしは父の提言を受け入れず，また母とは軽い気持ちで帰宅時間を約束し，一日中釣りに夢中になってしまいました。途中で約束の時間に気付くのですが，結局釣りを続けてしまいました。家に帰ってその釣果を母に見せようとしたのですが，母はその場で釣りざおを折りはじめてしまいました。	**【学習例と発問例③】** 生活経験を振り返る。 **学習テーマを共有する**　条件４ 自分ごととして道徳的価値を捉えることができるように，「自分をコントロールできなかったことはありませんか？」と発問し，生活経験を振り返る。さらに学習テーマを「自分をコントロールするには。」と設定し本時の方向性を確認する。
展開	**4　主人公の気持ちや行動について考える** 「『最後の一匹を釣ったら帰ろう』と思って釣りを続けるわたしをどう思いますか。」 **＜判断と理由を考える＞** **＜内容と理由を話し合う＞** 「良くないと思います。理由は母との約束を軽く考えているからです。」 「良くないと思います気付いた時点で，急いで帰るべきだったと思う。」 「仕方ない。大漁だったから，こんな日はめったにないと思ったと思う。」 「仕方ないと思います。少しくらい，いいかな。」と思う気持ちはわかります。」 「もう約束の時間は過ぎていたから，最後の 1 匹を釣るのと，今帰るのは同じだと思ったから。」	【学習例と発問例⑥】 問題場面における主人公について自分の感じ方を明らかにする。 **主人公の心情・行動について多面的･多角的に考える。** **他者と議論する**　条件３．６ 「『最後の一匹を釣ったら帰ろう』と思って釣りを続けるわたしをどう思いますか。」という発問をし，道徳的価値について多面的・多角的に捉えることができるようにする。 ペアで話し合うことで，根拠となる自らの考えを表出させ，多様な意見に気付かせ，自らの意見を深める。

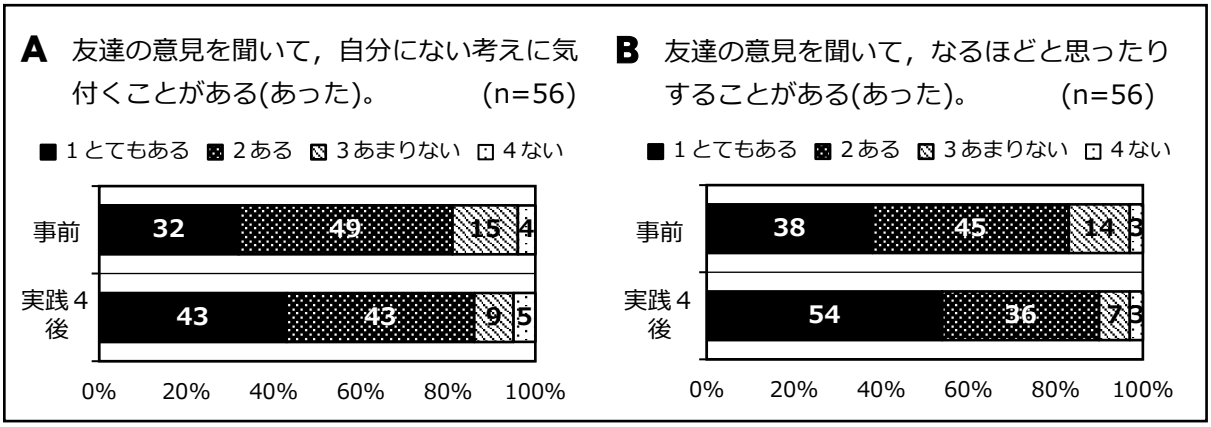
	５　自分との関係で，問題について考える。 「母は，帰ってくるはずの主人公を，玄関の前で待っていました。主人公の行動と，従兄弟の死は直接関係しませんが，どうにか死に目に合わせようとして主人公の帰りを待っていました。」 「釣りざおを折る母の涙を見て，私はどんなことを思いましたか。」 「後悔していると思う。お母さんだって，無理して釣りざおを買ってくれたのに，それを折るのだから，本当に自分は自分勝手なことをしてしまったと後悔していると思う。」 「ごめんと謝っていると思う。お母さんは，帰ってこなくて心配しただろうし，正ちゃんのことよりも自分の楽しみを優先させてしまって謝りたい気持ちになったと思う。」 「わたしにどんなことに気付いてほしくて，母は，つりざおを折ったのだろうか。」 「自分の都合で，決めた時間を延ばしていってしまう弱さに気付かせたかったと思う。」 **６　道徳的価値について，さらに考えを深める。** 「『俺の敵はだいたい俺です』という言葉があります。この敵とはどんな自分のことでしょう。」 「時間を守れない自分。」 「弱い自分。」 「この自分の弱さと戦うことは，とても大切なことですね。この主人公であるわたしも，大人になっても，このことを忘れずにいます。腕時計を見て時間を気にしています。」	【学習例と発問例⑦】 問題解決に向かう主人公について考える。 **「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について，多面的・多角的に考える**　条件５．６ より主体的に道徳的価値について考えさせるために，釣りに夢中になってしまった主人公に共感させた上で，「自分に都合の良い言い訳をして，弱い心に負けてしまった主人公」を生徒に気付かせる。 「自制」についてさらに考えを深めるために，「私たちの道徳」にある「内なる敵」を取り上げる。
終 末	**７　本時の学習や自己を振り返る。** 「自分をコントロールするには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」 「自分の心が自分自身をどのように導くかと考えるコントローラーだと僕は思います。そのコントローラーを自分の良い方だけにもって行けば弱い心になってしまうし，自分のことだけではなく，まわりの人のことを考えるようにもって行けば強い心になるので，自分がどのように考えて行動するかによって人の心は変わっていくと思いました。」 **８　教師の説話を聞く。** 「今日，みなさんは自分をコントロールするにはどうしたらいいか考えました。これは，今だけに限らず大人になっても大切なことです。今日考えた自分なりのコントロールの仕方で，よりよい自分を作っていってほしいと思います。」	【学習例と発問例⑪】 これからの課題や目標について考える。 **最終的な自分の判断をまとめ，学習や自己を振り返る**　条件７ 導入で設定した学習テーマをもう一度取り上げ，「自分をコントロールするには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」について最終的な自分の判断をまとめ，学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめる。

ウ　授業の検証

(ｱ)　授業実践４のワークシートの自己評価と事前アンケートから

①　多面的・多角的な考え方についての検証

授業実践４における多面的・多角的な考え方についての検証結果を【図８】に示す。



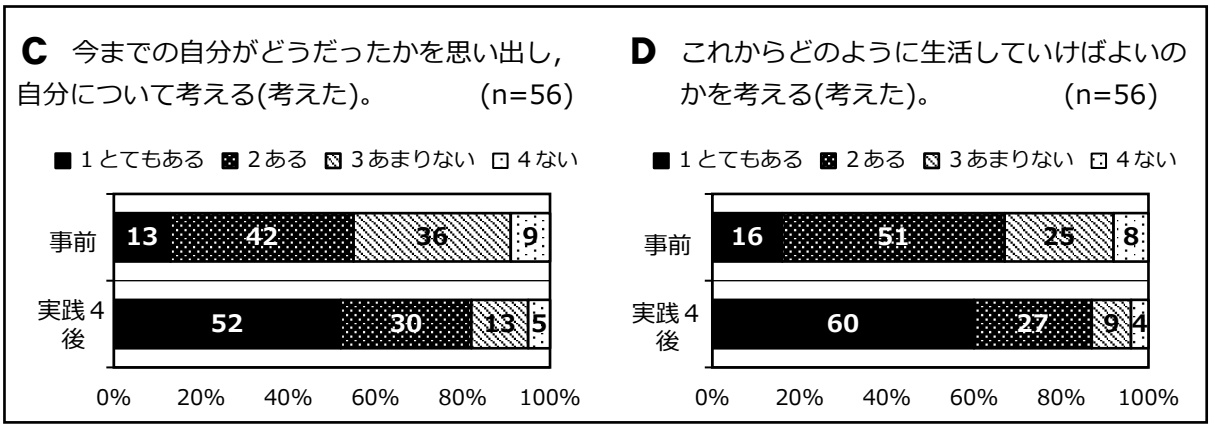
【図８】授業実践３における多面的・多角的な考え方についての検証結果

この結果から，「自制」について多面的・多角的に考えたと言える。これは，「『最後の一匹を釣ったら帰ろう』と思って釣りを続ける私をどう思いますか。」と発問し，生徒に主人公の様子や状況を多方面から推し量らせ，他者と議論する場面を設定することで，自分がどのような観点で「自制」について考えているのか明らかにできたからだと考えられる。

特に，ペアで話し合うことで，生徒は根拠となる自らの考えを表出し，多様な意見に気付き，自らの意見を深めることにつながった。話し合いを通して生徒は自分にはなかった考え方に気付いたことで，他者と議論を通して異なる意見に出会う意義を感じ，道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にすることができたと考えられる。

②　自分との関わりについての検証

授業実践４における自分との関わりについての検証結果を【図９】に示す。



【図９】授業実践４における自分との関わりについての検証結果

この結果から，生徒は自分ごととして道徳的価値を捉えることができたと言える。展開後段で「釣りざおを折る母の涙を見て，私はどんなことを思いましたか。」という発問をすることで，生徒に主人公と自分を重ねて考えさせることができた。弱い心に負けてしまった主人公に共感させることで，生徒は自分ごととして道徳的価値を捉えることができたと言える。終末において，学習テーマをもう一度取り上げ，「自分をコントロールするには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」について最終的な自分の判断をまとめることは，これからの課題や目標を見付けることにつながったと考えられる。

(ｲ)　授業実践４のワークシートの振り返り記述から

授業実践４のワークシート(３　今日の学習で感じたこと，考えたこと)の記述を【表７】に示す。

【表７】授業実践４における振り返り記述

A 「自分がどのように感じたり考えたりするのか」に関わる記述	B 「多様な感じ方や考え方」に関わる記述	C 自己決定に関わる記述
○自分で決めた約束を破るのはだめだと思うけど，もしも自分も同じ立場だったら，同じことをしているんじゃないかと思った。釣りざおは無理して買ったのに，折ってしまった母は色々なことを考えていたのだと思う。もし時間通りに帰っていればいとこが生きているうちに間に合ったのではないかと思った。自分の弱さに勝てるかは自分次第だと思った。 ○1 個 1 個確実に守っていけば，そのうち自信がついて守れるようになると思います。自分もよく約束を決めてやるけど，守れたことがあまりないので，少しずつ小さな約束を守っていけばいいと思いました。少しずつ自分をコントロールするのになれていけばいいと思いました。	○物や形として表現できなくても，忘れてはいけないことがいくつもあることが分かった。これからはそういうものに目を向けていきたいと思う。自分をじゃまする自分を無視できるようにがんばりたい。 ○自分の都合のいいようにばかりすると，相手も自分も悲しい気もちになってしまうことがあるということが分かりました。自分の心にある「やりたいこと」は封印することも大切だと思いました。 ○やっぱり約束を守ることは大事だと思った。自分でコントロールできなくなったとしても，自分でいった決まり事は自分で守らなければ，誰かが悲しい思いやつらい思いをしてしまうかもしれないので守ることは大切だと思った。	○自分の心が自分自身をどのように導くかと考えるコントローラーだと僕は思います。そのコントローラーを自分の良い方だけにもって行けば弱い心になってしまうし，自分のことだけではなく，まわりの人のことを考えるようにもつて行けば強い心になるので，自分がどのように考えて行動するかによって人の心は変わっていくと思いました。 ○自分をコントロールするには，自分の気持ちに負けないで，自分の決めたことはしっかり守る。自分よりも人のことを考えて行動した方がいいと思う。約束を破ると取り返しのつかないことになるのだから，後のことを考えて行動する。

①　振り返り記述の検証

学習テーマである「自分をコントロールするには。」について具体的な記述が多く見られた。このことから，導入の段階で，教材の内容に興味や関心を持たせた上で課題を設定し，終末の段階でもう一度問いかけることは，これからの課題や目標を見付けさせる上で有効であったと考えられる。

②　授業を通してのまとめ

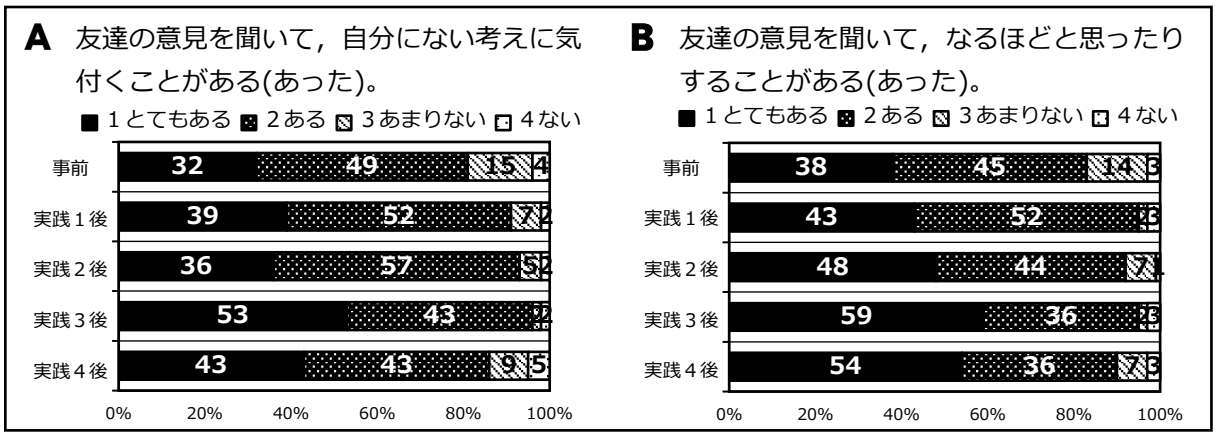
この授業では，自分の弱さに負けないように自制し，節度を守り節制を心掛けようとする姿が見られ，「自制」について多面的・多角的に捉えるのに有効な教材や発問の工夫，話し合い活動であったと言える。終末段階で，「自分をコントロールするには，どんなことを大切にしたらよいだろうか。」ともう一度問い直したことで，「約束を守る。」「時間を大切に使う。」といった行動面のまとめから，「約束を守れない自分の弱さに勝つために，誰かに迷惑をかけるのではないかと考える。」といったような自己の統御に関わる記述が見られた。さらに，これからの生き方や，自分なりの自制について記述している生徒も見られ，授業を通して「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について考える自然な流れを作ることができた。以上のことから，議論を通して人間としての生き方について考えることにつながったと考えられる。

Ⅷ　研究のまとめ

1　授業実践後のワークシートの自己評価と事前・事後アンケートから

(1)　多面的・多角的な考え方についての検証

授業実践後における多面的・多角的な考え方についての検証結果を【図 10】に示す。

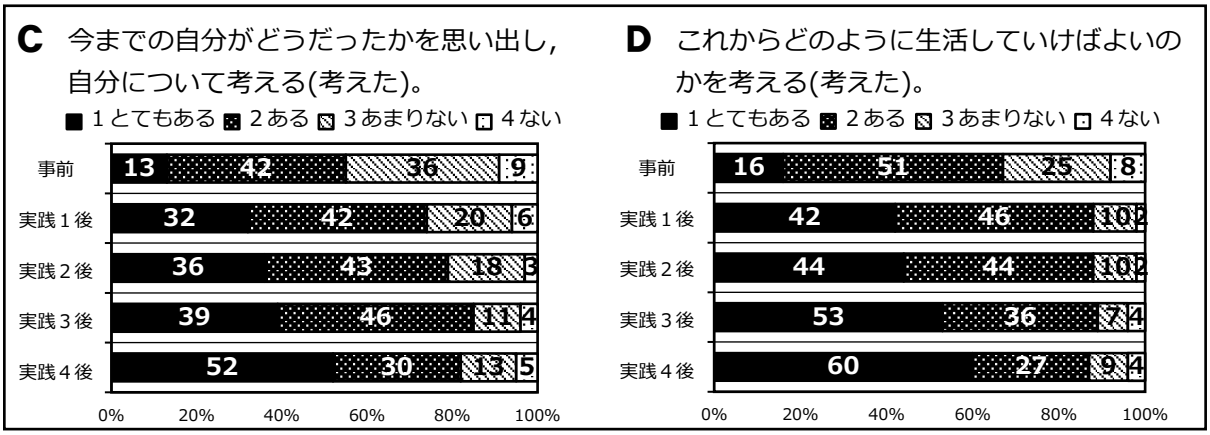


【図 10】授業実践後における多面的・多角的な考え方についての検証結果

この結果から，実践を重ねる毎に，道徳的諸価値について多面的・多角的に考える生徒が増えたことが言える。これは，生徒に主人公の様子や状況を多方面から推し量らせ，他者と議論する場面を設定することで，自分がどのような観点で道徳的諸価値について考えているのか明らかにできたからだと考えられる。特に，ペアで話し合うことで，生徒は根拠となる自らの考えを表出し，多様な意見に気付き，自らの意見を深めることにつながった。話し合いを通して生徒は，自分にはなかった考え方に気付いたことで，他者と議論を通して異なる意見に出会う意義を感じ，道徳的価値について自分の感じ方や考え方を明確にすることができたと考えられる。

(2)　自分との関わりについての検証

授業実践後における自分との関わりについての検証結果を【図 11】に示す。



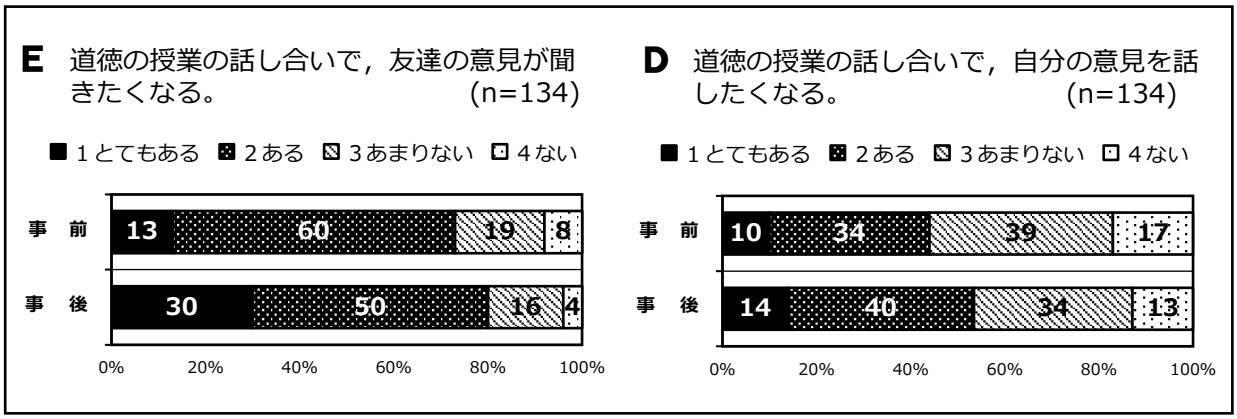
【図 11】授業実践後における自分との関わりについての検証結果

この結果から，生徒に主人公と自分を重ねて考えさせることで，道徳的価値を自分ごととして捉えることができたと言える。主人公の行動を追体験させることや，主人公の判断がどのような理由によるものなのか考えることは，自らの価値観を問い直し，道徳的価値を自分ごととして捉えることにつながったと考えられる。

さらに終末では，学習テーマをもう一度取り上げ，最終的な自分の判断をまとめたことで，これからの課題や目標を見付けることにつながったと考えられる。

(3)　課題意識についての検証

授業実践後における課題意識についての検証結果を【図 12】に示す。



【図 12】授業実践後における課題意識についての検証結果

この結果から，生徒自らが学びたいという課題意識や課題追求への意欲が高まったと言える。これは，学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題について考えさせることにより，学習意欲の喚起につなげることができたからと考えられる。教材や生徒の生活体験などを生かしながら，学習テーマとなる道徳的価値に根差した問題について考えさせることは，生徒が道徳的価値と自己との関わりを主体的に問い直す上で重要である。

2　事後アンケートの記述から

事後アンケートの自由記述を【表５】に示す。

【表８】事後アンケートの自由記述

A 「自分がどのように感じたり考えたりするのか」に関わる記述	B 「多様な感じ方や考え方」に関わる記述	C 自己決定に関わる記述
○前の自分と比べて，授業の間に，これまでの自分を思い返すことが多くなった。お話を読む中で「自分だったら」と考えるようになって，自分のことを思い返したり，「自分だったら」と考えたりするのが楽しくなった。 ○授業で出た話の中に，自分が経験したようなエピソードがあって，自分と主人公との言動を比べたりすることがあった。授業をするうちに道徳の魅力などが分かってきて楽しかった。 ○私は，必ず道徳の勉強をすると，主人公と自分を比べたりする癖がつきました。それによって，いろんな感情が出てきて，自分に素直になりました。それに難しい内容も，自分が思ったことをうまく伝えるにはどうすればよいかなども，深く考えられました。 ○道徳は自分を見つめ直すことができるのでとてもいいです。	○人はいろいろな事態に直面することがあるということが道徳で分かった。１つの考えだけだと思っていたら，もう１つも考えもあったということもよくあるので，よく考えなければいけないということが学習できた。 ○自分の思ったことや，感じたこととは別の意見もあることが分かった。生きていくとつらい決断があって，それを乗り越えないといけない。自分がつらい決断をしなきゃいけないときは，しっかりと決断したいです。 ○自分にない考えを聞くことがおもしろかったです。また自分になかった考えを知ることで広く物事を考えることができました。 ○自分の考えで決めつけるのではなく，よくよく考えたり相手を考えたりすれば，相手の接し方とか見方が変わってくるのかなと思いました。	○今まで，自分で気付いたことを他の人に話すことはなかったが，今回の授業では他の人と話すことが楽しかった。 ○前の自分と比べて，授業を重ねるにつれ，自分の意見がすらすら出てくるようになった。 ○前のころは，道徳で発表してなかったけれど，今はちゃんと自分の意見を話すことができるようになった。前の道徳のイメージはつまらなくて楽しくなかったけれど，ちゃんと発表できるようになったら楽しいという気持ちになりました。 ○自分の意見を言えるようになったし，自分の考えを自然にもつようなった。

D 他者と議論する意義についての記述	E 道徳的価値についての記述	F よりよく生きるための見通しについての記述
○友達と意見を交流することなどは，最初はあまり大切ではないと思っていたけど，今回の授業で，友達と交流することの大切さ，そしてその友達の意見によって自分の意見も変わることがあるということが分かりました。 ○人と意見を交流することで，自分にない考えに気付いたときになるほどと思って快感があった。 ○友達の意見を聞くとなるほどと思ったりして，とても授業がより楽しくなるところが道徳のいいところだなと思いました。	○前の自分と比べて，思いやる気持ちや，人のことを考えるということがいっそう強まったような気がします。 ○自分の言ったことには責任をもつようにしていかなければならないと思いました。理由は自分が決めた約束を自分で破ってしまって後戻りできないということが分かったからです。消えてしまったものは二度と戻らないから，自分が決めた約束や，自分が言ったことにはちゃんと責任をもたなければならないと思いました。 ○道徳の授業をして，前の自分よりもっと考えて行動するようになったと思う。この言葉を言うと相手はどう思うのかなどを考えて話すようになったと思う。これからも，どのように生活していけばよいのかを考えたいと思った。	○今の自分に足りないものなどが分かった。相手の気持ちや，大事な事がはっきりと分かった。質問に答えてきて，友達の意見をもっと尊重するべきだと思った。 ○自分の意見だけで行動せず，周りの人の意見も聞いてこれからも行動していきたいです。そのためにも，誰に対しても優しい態度で接していきたいです。 ○道徳の授業を重ねていくうちに，人に何かをするときや，自分が何かをするときに，こういうことをしても大丈夫かとか，これを言っても大丈夫かなとか，１回立ち止まって考えてみるようになりました。そのおかげで，人との接し方が変わりました。

G 道徳の時間全般についての記述
○一番最初は，別に自分の考えは何も変わらないと気安く考えていましたが，だんだんやっていくうちに，「あ，なるほど」「あ，それもいいな」など自分の考え，友達の考えを比べてみたり，時には「こっちの方がいいかもしれない」と考えを変えたり，「昔の自分はどうだったか」「今はどうか」「これからはどうすればいいか」と考え，自分，友達についてよく知れました。これからも自分に入れ替えて考えて，深く楽しく授業をやっていきたいです。 ○今までの道徳のイメージは，本を読んで登場人物の気持ちなどをみんなで考える授業だと思っていましたが，授業をして自分の考えをきちんと伝えることができるようになったし，「もし自分だったら」などと考える力も付きました。そして友達の考えも聞いて自分の考えと比べることもできました。 ○道徳は自分の心や行動を考えられる時間だと感じました。自分ならどのようにするかなどたくさんの感情がわき，とてもいいイメージを自分にもてるようになりました。 ○道徳は，自分の中で答えをつくるものだと勝手に勘違いしていました。でも，今回の道徳をしたら，友達の意見を聞き答えが変わったりしました。自分で答えをつくるのではなく，みんなで意見を言い合って作っていくものだと気付きました。

上に示した授業実践後の自由記述から，道徳の学びに向かう姿勢が変わった生徒が多く見られたことがわかる。これは，問題解決的な学習を取り入れたことによるものと考えられる。問題解決的な学習をすることで，まず，「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」といったように，道徳的問題を自分ごととして捉え，道徳的価値の理解を深めていくことができた。そして，多面的・多角的に考え，議論することで，異なる意見と出会い，他者の考えと比較することができ，自己を深く見つめことにつながったと言える。さらに，人間としてよりよく生きていく上で道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気付き，自己や社会の未来に夢や希望をもつことにつながったと考えられる。

これは，道徳の授業にとどまらず日常生活や今後出会うであろう様々な場面及び状況において，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践できるような内面的資質を養うことにつながり，本研究における授業づくりにおける条件，基本の学習指導過程は有効であったと言える。

３　全体考察

本研究は，他者と共によりよく生きる基盤となる道徳性を養うため，道徳的価値について多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業を実践していくことを通して，中学校における「考え，議論する」道徳科授業の在り方について明らかにするというものであった。

検証結果から，生徒が自分ごととして道徳的価値を捉え，これからの課題や目標を考え，よりよく生きるための見通しをもったことを確認でき，本研究における多面的・多角的に学ぶ問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件，基本の学習指導過程の有効性が示されたと言える。

授業実践では，学習テーマの設定が重要であると感じた。問題解決的な学習を取り入れた授業をつくる上で，学習テーマの役割は大きく，生徒の実態と教材の特質を踏まえた上で設定する必要がある。本研究では，２つの分類に基づいた学習テーマを設定し，授業実践を行った。一つめの分類は，道徳的価値について人間としてよりよく生きる上で大切なものは何かを考えるものである。実践１，３の学習テーマように「～について考える」「～とは」と設定できると考えた。二つめの分類は，道徳的価値の実現は容易ではないことを理解し，道徳的価値を実現するために何を大切にしたらよいかを考えるものである。実践２，４の学習テーマのように「～には」「～ためには」と設定できると考えた。この２つの分類に基づいた学習テーマ設定は，生徒の思考を導く上で重要な要素となったことが，振り返り記述から確認される。

４　研究の成果

- 導入部で，学習テーマとなる道徳科における問題について考えさせることにより，学習意欲の喚起につながることが確認できた。
- 問題場面における主人公の心情・行動について多面的・多角的に考えることで，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていくことが確認できた。
- 「自分ならどうするか」「なぜそうするのか」について他者と議論する中で，異なる意見と出会う意義を感じ，他者の考えと自分の考えを比較するといったような多面的・多角的な見方へと変容し，自己を深く見つめていくことが確認できた。
- 問題解決的な学習を取り入れた授業づくりにおける条件と基本となる学習指導過程を行うことで，これからの課題や目標を考え，よりよく生きるための見通しをもたせられることが確認できた。

５　今後の課題

- 他者と共によりよく生きる道徳性を養うため，継続的に指導方法についての研究を進める必要がある。
- 学校の教育活動全体で行う道徳教育を推進するため，道徳教育の全体計画や年間指導計画に基づいた授業づくりについて研究を進める必要がある。
- 生徒が自らの成長を実感し，意欲の向上につなげていく評価の在り方，教師の指導改善・充実につなげていく評価の在り方について研究を進める必要がある。

＜おわりに＞

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒の皆さんに心からの感謝を申し上げ，結びのことばといたします。

Ⅸ　引用文献および参考文献

【引用文献】
文部科学省(2008),『中学校学習指導要領解説　道徳編』, 日本文教出版, p.15
【引用 Web ページ】
教育課程企画特別部会(2015), 論点整理, p.47
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/12/11/1136111.pdf（平成 28 年 11 月 29 日閲覧）
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(2016),「特別の教科　道徳」指導方法・評価等について(報告), p.6
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/08/15/1375482_2.pdf（平成 28 年 11 月 29 日閲覧）
道徳教育の充実に関する懇談会(2013), 今後の道徳教育の改善・充実方策について(報告), p.12
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/096/houkoku/__icsFiles/afieldfile/2013/12/27/1343013_01.pdf（平成 28 年 11 月 29 日閲覧）
文部科学省(2015),『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』, p.17
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_6.pdf 平成 28 年 11 月 29 日閲覧）
文部科学省(2015),『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』, p.17
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/08/10/1375633_8.pdf（平成 28 年 11 月 29 日閲覧）
【参考文献】
土田雄一　山田誠　林泰成(2008),『NHK 道徳ドキュメント　モデル授業』, 教育図書
永田繁雄(2016), 東京学芸大学　道徳授業パワーアップセミナー　発表資料
【参考 Web ページ】
日本放送協会　NHK for school
http://www.nhk.or.jp/doutoku/kokorobu/（平成 28 年 11 月 29 日閲覧）